

塔名の形在る帝の領する軍政官
ト職務上ノ専係ニ帯スル意見

今由官の親に於ては常に親に目録を以て
所を授けし可也之れを帝に領する軍政官
ト職務上ノ専係ニ帯スル意見ニ失し
居る減アリ隨て之を制する能はず多分其大
たそそ受生するカキキ 坊合を想定する職權
ハ親自明瞭ヲ缺テト今今日、如く之は
ハ其後子件ニ其ノ帰依を所ニ或るハ
行即不便一ヲ招く恐し其ノ似たり殊
ニ裁判ヲ務メ取扱方ニ於テ然るトス
裁判ヲ務メ取扱方ニ於テ然るトス

外務省

此ノハ軍政官之ヲ取扱ニ必ズ人ノ被考ル
坊合ハ多所屬必領するなり裁判し而して帝
國臣民ノ被考ルニ坊合及帝臣民ノ犯
罪ノ件ハ條約上ノ權利トシテ帝必領事
之ヲ専權ニ居る軍政官ニ別ニ軍事上
ノ必要アリト認むル領事ノ専權範圍ニ屬
スルニ任意ニ之ヲ承認スルノ權ヲ有し
居るナリ決テ得ニシテ之ヲ云ハ 領事ハ
甲乙如知人、犯罪者ヲ日中、法令ニ據
ルニ當り得るト曰時ニ他ノ一方ニ於テハ軍政
官ニ乙乙知人、犯罪者ヲ對シ任意ニ之
ニ専屬ヲカ、領事ハ軍政官ノ以テ承認ラ
ル軍事上ノ必要ニ基ケンキナラント為レテ

黙認し居たり更、詳言スルハ如斯人、拒罪
者ヲ東討スルハ、概シテ軍政官ニシ
テ領事ハ、惟軍政官ヲ持シ、引渡シ受
ケ奉討方ヲ求ムルハ、如斯人ノ、對シ日本
ノ法令ヲ修リテ、東討シ其ノ餘、如斯
人、拒罪者ノ對シ、軍政官カ向テ之
ヲ受テ居ルハ、表面ニ於テ、居ラサレ
テ、軍政官ハ、如斯人、付来居位
及シ、官業ノ對シ、或制限ヲ付シ、居
ルハ、如斯人、付来居位及シ、官業、自由ハ、條約
上ノ權利ニカ、如シ、若シ、此制限ヲ付
クハ、官業ノ對シ、如シ、然、如シ、容
ルハ、如シ、軍政官、如シ、是、亦、考

外務省

ト、軍ヲ、下、必要ニ、考、ル、モ、ナラ、シ、ト、思、メ、テ、其
後、ニ、ナ、シ、居、ル、ハ、居、留、在、ル、ハ、如、斯、人、取
締、ル、点、ヲ、軍、政、官、ハ、先、ツ、之、ヲ、軍、政、官、署、ニ
送、出、サ、シ、メ、軍、政、官、カ、居、留、許、下、ル、與、印、ヲ
捺、セ、ル、ハ、之、ハ、戸、籍、ノ、点、ヲ、之、レ、シ、テ、再、テ、領
事、ニ、送、出、サ、シ、メ、領、事、館、ニ、於、テ、案、官、吏
ハ、唯、リ、如、斯、人、案、ノ、一、部、ヲ、取、理、ス、ル、止、リ、
司、法、部、ニ、案、ハ、勿、論、行、政、部、ニ、案、ハ、大、部、分、ハ、
概、シ、軍、政、官、署、ノ、司、掌、ス、ル、所、ナ、リ、在、留、業、止
ノ、以、キ、リ、取、扱、分、テ、於、テ、之、ハ、請、求、ラ、軍
政、官、ヲ、受、テ、之、レ、除、シ、領、事、館、ニ、案、シ、テ、如、斯
人、案、ノ、處、ア、ラ、ハ、清、法、ニ、在、留、在、出、取、締、法、ノ
條、文、ニ、據、リ、テ、取、扱、分、セ、ト、覆、牒、セ、シ、テ、之、ノ、對、シ、

軍政官ハ別ニ任置ル方法ニ依リ之ヲ要ス
ニ放逐シテ一事例アリ要スニ領事ノカ條
約及法律ニ據リ有テ權限ニ軍ヲ上必要
トスルニ軍政官ノ踏入ル所ニ任シテ權
限範圍不向ノ旨ニお過キ居ルニテ口ノ執態
ナリトス

亦三五カ月前、領事内ニ於テ我占領軍
務官憲トモ候キ領地内ニ於テ裁判
權ヲ有ス我領事トモ各々職務ヲ口時
ニ聯リテ協合スルヲ領事、條約上及法律
上權限ハ領事務官憲ノ許容スル範
圍ノニ限リ之ヲ決シ得ル止ルモヤ
法律的疑義ハ一領事問題ナキモ現下、實

外務省

際、然レテ以テ事實ニ或場合ニ於テ權
限ノ條約ヲ束スルニ非ラズニ權限範圍
固明ナクモ二頭政治ノ弊ハ免カレ可ク現
下ノ實狀トシテ軍政官及領事官ノ間ニ
特ニ權限ノ争議アリテ下名ニ後ニ
人ノニ之ニ對シテ謂スル人没スルカ
度ハ、已リテキ場合アルニテ隨テ相
度ヲ相与ル權限ヲ劃定スルニ法律上
テ必要ノ件ニ屬スルカ下名ニ軍政官
今日現ニ在リテハ裁判ナルモハ
不當ノ事トシテ謂フルカ軍人ノ
常ノ裁判トシテハ其ノ實績定
嘆ニ値スルモ是レアリト名ニ在リテ軍政官

ノ下ニハ特ニ常事裁判ノ下務ヲ承理スルキ
機要アルニアラス將之ヲ裁判スルニ當リテ今
日ヨリハ河津津探スルキ法令ノ備ハレルアルニ
非ス畢事竟スルニ軍ヲ下ル必要アル者下之
ヲ逮捕シテ任意ニ刑ヲ与テテ之ヲ執リテ不
ルニ止マラズ戰闘區域内ニ於テハ遠般ノ下
タ已ララ得セハレトモ現ニ軍官ハ我占領地
ルニ在ル者既ニ開港場トシテ各西人ノ事は自
由ニ其ノ所志ヲ行フモ既ニ既任シテ我人保
護ノ任ニ當リ居ルハ日ニ於テハ同法ノ下亦
特ニ最モ重キヲ置ルコト可シテ其ノ犯罪者
ヲ審判スル事トスルニ當リテハ極テ慎重ニ
擬律ヲ行フニ非ラスコト也イテハ累テ累テ政

外務省

府ノ上ニ及ホスナキヲ保セザルコト
滿洲占領地施政ノ件ト題シテ該施政ニ係
ル内閣ノ方針箇條書中ニ目下既朝中ノ
牛莊領事ハ我ニ於テ禁口ヲ占領スルコト
ニシテ之ノ既任セシメ普通通領事ヲ兼
ル外領事團ノ會議ニ臨ミ我意思ヲ表
シ領事至下清地地方官官ノ交渉ヲ監視
セシメ並ニ各國領事ト我軍政廳ト百ニ立
ケ意思ノ融通ヲ計ル等ノ任ニ當ラシムル本
官ハ此一節中ニ三個ノ疑点アリト思フ其
一ハ普通通領事ノ事務ハ國際慣例上領事
官タルモノニ當然ノ事務ノミヲ指シ特ニ國際
條約ノ規定ニ準據シテ可キ事ニ對シテ裁判

6-0062

0239

予稿、以キハシクサ、不、理、以、以、陰、収、ル、義
ナルト、疑、心、シ、テ、サ、亦、二、我、意、思、ヲ、表、表、ス、
ノ、我、意、思、ト、ハ、カ、東、領、事、ト、官、ニ、依、リ、テ、表、表、セ、
ス、ハ、キ、帝、國、政、府、ノ、意、思、ト、ヤ、將、テ、カ、口、を、該、
地、方、ノ、政、政、者、ト、軍、政、官、ヲ、以、除、通、シ、テ、表、
表、セ、ス、ル、キ、帝、國、政、府、ノ、意、思、ト、ヤ、点、ナ、リ、並、
リ、而、シ、テ、サ、亦、三、ハ、若、シ、帝、國、領、事、ノ、任、シ、ル、テ、
各、國、領、事、ト、我、軍、政、府、ト、中、留、ニ、立、テ、所、ノ、意、
思、疎、通、シ、一、概、要、ト、ト、カ、サ、帝、國、領、事、ノ、カ、條、約、
上、及、法、律、上、者、ス、權、限、ハ、以、而、者、對、シ、カ、何、
ナル、程、度、マ、テ、之、ヲ、行、使、シ、得、ヤ、ト、是、ナ、リ、ト、ス、
之、一、要、ス、ル、方、案、者、ノ、趣、意、ハ、明、瞭、ナ、ラ、ス、ト、名、也、
鬼、ノ、自、カ、リ、口、ノ、領、事、ノ、任、置、ニ、サ、カ、然、レ、權、限、

外務省

ヲ、行、使、ス、ル、上、ニ、於、テ、殆、ク、困、難、ノ、情、ナ、キ、ア、ラ、ス、
今、ノ、口、邊、口、ニ、於、テ、ハ、私、人、ヲ、取、締、ル、者、ト、シ、テ、軍、
政、官、ハ、主、位、ニ、立、テ、領、事、ノ、寄、任、ニ、立、テ、事、外、必、
人、ニ、要、ス、ル、事、件、ニ、於、テ、軍、政、官、ノ、多、ク、場、合、
ニ、於、テ、領、事、ノ、意、見、ヲ、詢、キ、テ、取、理、ス、ル、慣、
例、ト、由、シ、キ、軍、政、官、ニ、必、ス、シ、モ、亦、為、サ、ス、ハ、
ナ、ラ、ス、責、務、ア、リ、シ、非、ス、隨、テ、領、事、ノ、唯、軍、政、官、
ノ、相、決、ヲ、受、テ、カ、ル、場、合、ニ、限、リ、已、ヒ、ノ、意、見、ヲ、
申、述、ス、ル、止、マ、ル、例、ナ、リ、通、却、ニ、現、下、両、者、ノ、權、
限、ヲ、云、フ、ハ、サ、ノ、軍、政、署、ニ、持、テ、来、シ、ル、事、件、ハ、
軍、政、官、ニ、於、テ、之、ヲ、取、理、シ、領、事、ノ、領、事、持、テ、
来、シ、ル、事、件、ハ、領、事、ノ、之、ヲ、取、理、シ、居、リ、ト、謂、
テ、可、ク、ハ、亦、亦、ナ、リ、他、ニ、テ、切、合、ニ、テ、之、ヲ、在、ル、カ、

6-0062

0240

人ニサリ帰依スル所ニ惑フコトアルナキヲ 俗々ニ是
レリ政ノ如クニ非ラサルハシカ官ヲシテ忌憚
ナク云々ニシテ最良ノ制ハ軍政官ト領事官ト
ト曰フ一人ニ兼担セシメテ職務ヲ異ニシテ部
ハ資格ヲ異ニシテ之ヲ示理セシムルナリ軍
政官トシテ軍人ナク局ニ充テリテ始メテ其
名アルモノナリト解スル代ニシテ政官ノ称ヲ以テ
スル亦必スルモ不可ナラズト云々 政治時代ニ行
ク領事カ民政官ノ職ヲ兼担シ居ルニモ畢竟
曰フ一職ニ兼担シ居テ思ハルニ去リテ右ノ兼担
云々ハ現ニ方計以テ之ニ居ルニモナラズナリ
前述べ如ク軍政官ト領事トノ権限ノ範圍
ヲ以テ劃定シ置ルコトヲ將來ニ於テ第一ノ事

外務省

議アラレ協定ニ應ズル緊切ノ件ナリト即チ軍
政官ノ権限トシテハ原則トシテ實際軍ヲ目的必
要ニ基テ各般ノ施政ニ止リ此ハ現下清ニ官憲
ノ未ク口地ニ復帰セザル間ニアリテハ初メ清ニ友
憲ノ職責ヲ負フ事項ヲ概言セザルナリ軍ヲ
上ニ必要ニ基テ清ニ人ノ犯罪者ヲ中判
スル然ラバ字備軍目今及ニ於テ此際軍
律ヲ公布シ軍政官ハ此軍律ニ準據シテ
右後犯罪者ヲ中判シ清ニ人ノ犯罪者
民事トシテ民事事件ハ之ヲ勸解的ニ審
訊裁定シカ知人ノ犯罪者ニ就テハ之ヲ軍
法ニ依テ新罪ニ添テ之ヲ中判スル
ハ之ヲ然ラザルナリ之ヲ中判スル

6-0062

0241

政令を以て之を領する、權内ニ存する、例ハハ
在留禁止を以て之を領する、例ハハ
コトスリ、將又ハ領地施政ノ方針ニ據リテハ
軍政廳ニ幕僚トシテ、若シテハ二名、
外交官又ハ領事官ヲ置キ、トシテ、外國人
事務ヲ取扱ハシ、トシテ、軍政官ト
領事トノ意思能ク、疏通ニ職務ヲ共助、因
滑ルニ於テ、現下必ス、軍政官ノ部下ニ、
外交官又ハ領事官ヲ、職務ニシテ、要ナカ
又或ハ之ヲ、職務ニシテ、軍情モ、ア
既ニ、此等、領事事務ハ、勿論、事務、尚、條約ニ
至リ、又ハ、國際法、想ニ、據リ、其ノ、他、經濟、及、金
融、上、ノ、経、済、ヲ、調、査、シ、解、決、シ、報、告、ス、ル、均、ク、以、テ
キ、ル、於、テ、領、事、ハ、其、ノ、職、責、ヲ、シ、テ、概、シ、テ
軍、人、ト、シ、一、日、長、尺、ノ、中、若シ、カ、故ニ、軍
政、官、カ、務、ヲ、先、ツ、之、ヲ、領、事、ニ、譲、リ、サ、ル、意、
見ニ、勝、ヒ、テ、之、ヲ、区、分、ス、ル、下、ニ、為、ル、均、ク、以、テ、軍、政、
ヲ、代、表、シ、テ、口、地、ニ、駐、在、ス、ル、軍、政、官、ト、領、事、
ト、ノ、職、務、ヲ、区、分、シ、明、確、ト、ス、ル、以、テ、兩、者
ノ、權、限、上、ニ、係、リ、現、下、故、分、ノ、道、域、ヲ、定、然、
除、却、シ、得、ハ、キ、

外務省

英一千九百零五年

文部一六二二〇号

手向在後多左脚

寫

林啓陽者為軍醫醫務區域內於今人行
取規則及軍律ノ制定上在管口帝國領
事下口地勢在軍政委員ノ旨、現存
裁制事務ノ權限範圍承知致度下存
之別紙寫方一平ノ通、所行領事ノ問合
セ又亦別紙寫方二平ノ通回答ノ様ニ
高ル亦件ニ關シテ今回信文書記官被地
へ出張ノ際實地目撃ノ事情相認ノ實事
トシテ差出方ニ付今復別紙ヲ以テ及以送付
方寫方ニ就キ以承悉相成度ヲ敬具

明治卅七年十一月廿五

遼東守備軍司令部附

外務省

公使館書記官川上俊彦

外務大臣男爵小村壽太郎殿

6-0062

0243

別紙言弁之
 擇屋陈者之地方之移之地方行政及在
 留和和之形滞方之重要之豫之官トキ
 地與之官軍政委之官トキ以執務上相高
 之権限範圍之ハ其裁トハ存在其得共其現
 下當之他存氏及在留和和人其他外之人ト係
 儿裁判之務トシテ其裁トハ其軍政委之
 下ノ其職務上ノ其係トシテ心得之ノ承知致
 置度其官打返之ハ其内報相煩之度此致
 得中其意之致具

明治廿七年十月十六日

遠東守備軍司令部附

以便彼二等之江古川上後夜

外務省

在管口

領事湖川淺之進殿

6-0062

0244

外務省

法律第一九号

当地に於て之を裁判する事務を取扱方と爲し其月
十日(六日ノ陪カ)附ラシテ以テ尋裁ノ爲メ承
当地に於て軍政署ノ管轄ニ属スルコトヲ清
人ノ對スル裁判ヲ務メ曰署ノ於テ之ヲ取
扱ニ外白人ノ被害スル場合ハ各所存國領
事ノ於テ裁判致シ後ニ帝國臣民ノ被
害スル場合ニ於テハ本官ノ裁判權ニ属ス
ルコトヲ明カセ且軍事上ノ必要ニ係リ
場合ニハ軍政署ノ於テ適當ノ措置ヲ出
シ且下勿論ニ以テ其官右様ニ承認相成
度此取回答申進出教具

外務省

明治三十七年十一月十日

在牛莊

領事 沢川 淺之進

遼東守備軍司令部附

公使館ニ奉書知事川上俊彦殿

寫

明治二十七年十一月廿一日

城塞文部三七八号

拝啓陳言守備軍管轄区域内之於今軍
政官憲ノ裁判權限ニ及ビ別紙甲午記
載ノ事歴及之ニ附帶ス別紙乙午乃至丁
午寫ノ件ハ学说トシテ亦一定セザル事
有之將來ニ及ビ之ニ及ビ之ニ及ビ之
際ト存之者ニ取價ノ供養員又及及

明治二十七年十一月廿一日

遠東守備軍司令官部附

以候彼ニ事官川上俊彦

外務大臣男春小村壽平殿

外務省

明治二十七年十一月廿一日

6-0062

0246

別紙甲子

占領地域内ニ於テ施行スルニ裁断
事項ニ至リ生ズル疑義ノ事歴

遠東守備軍司令部ニ於テハ日露ニ將來サレテ
樺子域内ニ於テ施行スルニ軍政ノ準則トシテ
内ノ行政規則ヲ編成スルニテ川上書記長
ハ今ヲ余謀長ニ承テ之ニカ立案ノ任ニ當リ
昂々信文書記官ヲシテ十八ヶ條ヲ成ル行政
規則案ヲ起草セシメテ内軍政ノ委員
占領地行政及本邦人ノ對スル裁断權限ヲ
概括的ニ規定スル其方ニ備ヘテ曰ク
軍政委員ハ当該地方ノ治安秩序ヲ維持

外務省

シ日本軍隊ノ安全ト復舊ヲ圖ルニ必要
ナル行政及司法ヲ務メ執行シテ之ヲ大ニ
ルモノハ軍司令部ヲ指揮ヲ受ケテ之ヲ
執行スルニ

行政規則案ハ其ノ後余謀長ニ於テ之ヲ軍司
令部附陸軍理事ニ諮問シ付スルニ及テ右條文
中司法ヲ務メ執行スルノ点ニ至リ異議ヲ生
セリ異議ノ要旨ハ後由ニ在リ本邦人ノ犯案
者ヲ若シテモ之ニ行政十八ヶ條ニ依リテ
臨時軍法令會議ニシテ之ヲ軍政委員
員權限ノ所セシムルニ當テハ上列ノ見ルニ
妥當ニ派ラスト云フニテカ此ノ右ノ條文
中本邦人ノ犯案ニ係ル点ハ以テ異議ニ

基キテ左ノ終ニ案トナレリ

軍政委員ハ内ニ在リ日本臣民ヲシテ非凌
不法ノリ為ナカラシムル為メ之ヲ管理シ軍人
軍人ノ常人ノ犯罪ニシテ陸軍刑法普通
刑法其ノ他ノ法令ニ被ルモノハ何處ノ憲兵將
校下士ヲシテ檢察官ニ付テ司令官ニ具
申シ軍法會議ノ審判ニ付セヨ懲罰令
ニ依リ示スルハ一キモハ其ノ所屬軍隊軍
衛ニ移シ遠征罪ニ被ルモノハ憲兵將校
下士ヲシテ即決セシム

右條正案ハ常人ノ常人ノ犯罪ニ依ルモノハ軍
法會議ノ所屬ニ移スルヲ其ノ要旨トシ信吏
書記官ハ常人ノ常人ノ犯罪ヲ軍法會議ニ於
テ管轄スルハ軍法會議ノ精神ニ非ラザルハ
時ニ其ノ所屬方ヲ軍政官憲ニ委スルハ必ス
シテ遠征トシテ下ラスニ着シ法律上ノ疑義
アリトヤル其ハ軍法會議ニ依リ管轄ノ問題ニ
ラスシテ軍政官憲ノ裁判權トシテ軍政
官憲ノ管轄地域内ニ數在ル帝國領土
ノ裁判權トシテ其係ルモノアリト意見ヲ立テ
之ヲ別法ニ早寫ノ如ク實書トシテ系長
ノ系長ニ供ヤル系長ニ以テ裁判ノ項
ニ係リ管轄ニ至リ此際ハ法學者ノ見解ヲ
徵スルヲ以テ便利ナリト認メラシ當時系長
軍司令官部ニ法律顧問トシテ勳務系長
學博士有カク長雄ニ宛親シク書リ裁

外務省

學博士有カク長雄ニ宛親シク書リ裁

6-0062

0248

ヲ諮問ヲ為シタル博士ヨリハ別紙丙ヲ寫シ
右件ニ於テ右條ニ素ト取テ精神ヲ一ニセ
ル回答アリキトテ該回答ハ其ノ充ルニ意
ヲ尽サシムル点ナキニ決ラサシムル信文書記官
ハ更ニ命ヲ承ケテ亦三軍司令部ニ出張シ
博士ニ就テ該別紙丁ヲ寫シ其ノ意見ヲ徴ス
ルヲ得タリ該意見書ハ同書記官ニ於テ其
取リタル要領ヲ筆記シタル後博士ニ示シテ其
確認ヲ得タルモノナリトス

行政規則案ハ其ノ後更ニ多クノ改竄ヲ加ヘ
而シテ其確定後修訂案ハ其ノ尙未軍日令新尙
者ノ考慮中ニ在リキルニ於テ其ノ施行ニ
モカ件ニ至ルニ條文ハ該規則確定後修訂案ノ

外務省

亦十條トシテ

軍政委員及軍中ニ在ル者ニ於テ其ノ管理ニ軍
人軍中及軍中ノ犯罪ニ之ヲ陸軍檢察官
ニ移シ軍法會議ニ付スルノ手續ヲ為サシムル
ト改メリ即チ軍中ニ在ル者ノ常ノ犯罪ヲ軍
法會議ノ所管ニ屬セシムル原則ヲ採ルニ至リ

6-0062

0249

別件乙子

遼東守備軍行政規則案第六條

常人ノ犯罪ヲ軍法會議ノ審判ニ付

スル規定及之ニ付審判スル裁判

權ニ及スル疑義

遼東守備軍行政規則案第六條ニ謂ユル常

人ノ犯罪ハ獨リ常人ノ罪ヲ犯罪ニ止ララス其

常事犯罪ラズ之ヲ包含スルモノトセシカ之ヲ軍

法會議ノ審判ニ付セサルハカラストノ意見見ニ付テ

ハ聊カ疑ナキ決リス其理由左ノ如シ

一軍法會議ハ陸(海)軍治罪法ニ依リテ構

成セシ軍人軍属ノ對シテ裁判シテ

軍務行政核スルニ及ラス故ニ軍人軍属

外務省

ノ罪ヲ犯及常事犯罪ヲ審判スルヲ原則

トシ其ノ例外トシテ常人ノ或軍人ノ犯罪ヲ審判

スルニ止リ常人ノ犯罪ヲ審判スルハ曰

會議本末ノ性質ニ非ラス

一明治廿八年六月ノ臨時陸軍刑法會議並

ニ其ノ後陸軍刑法ノ適用

ニ及スル勅令第三條ニ依リ臨時軍法會議

ハ邊疆地内ニ在リ常人ノ犯罪

ヲ審判スルニ付得テ此ニ謂フニ犯罪トハ

常事犯罪ヲ指シ示スルハ法文上疑旨ト云

フノ如キハ勅令ニ依リ緊急命令ヲ以テ

發布セラルルモノニシテ常人ノ犯罪ヲ

包括セシムトセバ立法ノ當時之レヲ包括セ

こゝに於て必要トセし緊急ノ事情存セシモノト認
メテラ得ス此点ハ法文ノ文字ニ拘泥セズシ
テ其精神ニ適リテ之ヲ究リヘキコトナリ理
ニ於テ極力多クノ之ヲラズ後ハ法律解釋上
ノ要點ナリキル官ノ想像ヲ以テスルハ該條項
ヲ特ニ審判スルヲ得トセム所以ヨリ推シヨル條
項ノ精神トスル所ハ当該檢察官ノ存セザル場
合(例ハ軍政官憲ノ設置ヲ見ルニ至ルモノ
場合ノ如キ)ニ於テ軍法會議ハ臨時檢査ノ場内
ノ常人ノ犯罪ハ及ニ常ノ犯ヲモ指シスルモ
ノトシテ)ヲ審判スルノ權アリ所以ノ餘地ヲ
認メシトスルニ非ラズ也

一 或ハ此ニ在領地ニ於テ日本ノ對シヨ司法權

外務省

ヲ行使スル者ヲ軍法會議ヲ指シテ之ヲ軍
政官憲ニ求ムル帝立憲法第ニ十四條及第
五十七條ニ據ルルヲ奈何ト然レバ憲法第
ニ十四條ノ日本國民ハ法律ニ定ムル裁判
官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪フコトナレト
法律ハ之ヲ換言スルハ國法上裁判官ト称ス
ル司法官憲ノ資格ハ行政命令ヲ以テ定ム
ヘキニ非ラズト云フ義ニ外ナラス又其第ニ十五條
ノ司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁
判所之ヲ行コトシ天皇ノ名ニ於テ司法
權ノ發動スル所以ノ淵源ヲ示セムコト止
リ其後段ノ意義ハ國法上裁判所ト称ス
ル司法檢察官ノ行動ハ裁判所構成法ナ

凡法律規程範圍ニ於テハ、^レトノ^トト^ト過キス
裁判官及裁判所^ハ親會^ハ帝國憲法
ノ上ニ於テハ、^レ刑式上ノ觀念ニテ、^レ隨^フテ^テ憲法
ノ該條項ヲ以テ軍法令^ニ裁^ハ權能^ヲ云々
スル^ハ妥當ト云フ^ハカラス^レトナレ^ハ軍法令
裁^ハ帝^ニ憲法^ノ謂^ス裁^ハ裁判所^ニ非^ス其^ノ
審判官^ハ其^ノ謂^ス裁^ハ裁判官^ニ非^スサレ^ハナ
リ

以上ノ理由ヲ以テ本官^ハ在^ル領地内^ノ日本臣民^ニ
對^シテ^ハ司法權ヲ特^ニ軍法令^ニ裁^ハ委^スハ
キ^ヲ要^スト主張^ス理由^ヲ其^ノ見^ル能^ハス^ル本官
ハ該司法權^ヲ行使^ス在^ル領軍^ノ軍政官
憲^ニ委^スル^ハ在^ル領^ノ性質上^ノ何等^ノ又^ハ障^ハナ
シ

外務省

ト思^フテ^ハ本官^ハ軍政官^ニ憲^ニ司法^ノ
權^ヲ此際^ニ完全^ニ行使^ス得^ルヤ^ト否^ヤト^テ然^ラ
ハ一^ニ條^ノ疑^ハ点^ヲ有^ス其^ノ疑^ハ点^ハ他^ノ軍政
官^ニ憲^ニ裁^ハ裁判權^ヲ帝^ニ領^ノ領事^ノ裁^ハ裁判權^ヲ
其^ノ係^ハ是^レナリ^ト其^ノ理由^ハ左^ノ如^シ
清^ニ領^ノ領土^ニ駐^在ス^ル帝國^ノ領^ノ領^ノ日本^國
臣^民或^ハ一切^ノ他^國臣^民又^ハ人^ノ民^ヲ日本^國臣^民
民^ニ其^ノ財^產係^ハ係^ハ訴訟^ハ清^ニ官^吏又^ハ
清^ニ臣^民カ^レ清^國ニ^在ル^{日本}國^臣民^又ハ^其財^產
對^シテ^ハ其^ノ民事^{訴訟}清^ニ於^テ犯罪^ノ
被告^トナ^ル日本^國臣^民以上^ヲ就^シテ^ハ審^理
し^テ判決^シ交^ハ罰^スル^ノ權^ヲ有^ス右^ノ裁^ハ裁判官^ノ權^ヲ
權^ノ區域^ハ以^テ治^スル^ニテ^ハ其^ノ事務^者令^第五^号

於此規定セリ可アリ現下遼東守備軍
司令官ノ管轄區域タル盛京者ハ司令官ノ
管口駐在ノ帝國領軍之シテ管轄スル此
條約上領土ノ裁判權ハ軍ノ管領地カ清土
ノ領土ニ係ル以上ナリ在領土ノ管轄スル
理由ナク之ノ故ニ軍ノ在領土ニ區域ニシテ中
國タル清土ノ領土ノ以上右三種ノ場合帝
國領土ノ之ヲ管轄シ在領軍ノ管轄ハ清土
官憲ノ在任ナキ場合ニ於テハ清土官憲
ノ管轄ニ付スル清土臣民ニ對シ又ハ其ノ財產
ニ對シ清國ニ在リ日本國官吏或ハ臣民ヲ起ス
ル所ノ民ヲ訴及スル清土ニ在リ日本國臣民
ニ對シ犯罪ノ被害トナリ清土臣民ハ清土官

外務省

憲ニ代ツテ之ヲ審理シ判決トス罰スル權ヲ
有ラト云フヤ得ス
露國租借地ニ於テハ此關係ハ如何ト云フ租借
地ノ施政ヲハ清土内地ト異ニシテ一切ヲ我手
ニ管スル所ノ今日ノ方針ハ畢竟政治上ノ理
由ニ基クモノタルニ過キス露土カ租借地ノ下ニ
司法ノ權ヲ行使セリテ實ハ日清條約上ニ基
ク我領土ノ裁判權ニ何等消長ヲ本セシ理
由ニ隨テ法律上ノ見ルニ帝土領土ノ
裁判權ニ就テハ露土租借地ト清土内地
トノ別ニ何等ノ區別ナシト認メテ得ルニ故ニ
守備軍管轄ニ區域ニ於テハ司法權ハ理
論上左表ノ如クナリ

裁判受轄者

軍政官憲
但し清公内地
國官憲ナキ中
場合トス

帝國領事

日本臣民ノ在清

被告ナル民事

日本臣民原告ニシテ日本臣民

被告ナル民事

日本臣民原告又ハ臣民以

日本臣民(或ハ臣民)ニ對シテ清公

被告ナル民事

日本臣民又ハ臣民(及ハ臣民)

被告ナル民事

理論ハ後リニ右ノ如クシテスルニ實際ノ利害得失
ヲ商量シ殊ニ租借地ノ場合ニ於テ右ノ受轄
權ヲ所轄スルハ政治ニ對シテ或ハ必要
ノコトナシトモ限ラザルニ現下在領地
ノ軍政上ナリ司法權ヲ行使スルノ權限ト

外務省

シテ軍法令ノ權限ハ軍中軍政官憲ニ委スルニ
ニ就テハ後ノ疑フノ餘地ヲ存ス唯現行ノ國際條約
ヲ侵スコトナラズシテ在領地ノ下ニ軍政官憲カ
何ナル範圍ニテモ司法權ヲ行使スルヲ得キ
乎ニ就テハ今ノ於テ條約之ヲ考究シ其法權
ノ範圍ヲ劃定シ置クハ等シク我大政ノ下ニ立
ツ帝國國名官憲相互ノ權限上凌ヲ以テ切
コトナリトス

別法あり

林啓遠東軍司令官ノ裁判權ニ付テ下
河ノ件日本臣民ハ何地ニ在ルモ日本軍權ノ發動
ノ對シテ日本憲法ノ保護ヲ受ルル義ニ在リ
領權ニ日本軍權ノ發動ニ在リテ得ハ帝ノ憲
法第ニ四條「日本臣民ハ法律ニ定ムル裁判官
ノ裁判ヲ受ルル權ヲ奪ハレズ」ハ在領地ニ在
ル日本臣民ニモ通用スルモノト解釈スルノ以テ明
治二十七八年戰役中我政府ノ取リタル法理ニ亦
此ノ如クニ在リテ裁判官權ハ重要ナルモノト
相成ス

一 在領地軍人軍卒ノ各種犯罪ハ所屬部
隊ノ軍法會議ニ於テ裁斷シ臨時軍法會
議ヲ設ケタル地方ニ在リテ臨時軍法會議

外務省

ニ於テ裁斷ス
二 在領地常々ノ犯罪ニ付テハ左ノ區別アリ
陸軍刑法中常々ノモノニ通用スル明文ノ
刑罰ニ就テハ其地方ノ軍權ニ屬スル部隊ノ軍法
會議又ハ臨時軍法會議ニ於テ裁斷ス

三 右ノ外一般ノ犯罪ニ就テ臨時軍法會議
ヲ設ケタル地方ニ限リ廿八年勅令第百九十二
号第一條ニ依リ臨時軍法會議ニ於テ裁
斷ス
四 臨時軍法會議ノ設ケタル地方ニ在テ
ハ軍權者ナシ

三 民ヲハ軍人軍卒タルト常々タルトテ
領地ニ於テ之ヲ裁斷スル權アリ但シ各留

地内ノ領事裁判權ニ付スルモノハ格致ナリ
右様答申上頁(下略)
三十七年十一月六日
法学博士方賀長雄

神尾遠東海軍少謀長以下

外務省

6-0062

0256

お下り

占領地域内之於て裁判事項ニ関スル法
学博士有賀長雄氏ノ意見要領

亦至領土ノ占領ハ敵國領土ノ大伴ニ於テ其ノ
性質ニ異テ可ク見ス即チ占領軍ニ於テ占
領地域内ニ於テ全般ノ行政ヲ施シス
ルノ義務ナリ軍隊ノ必要上ニ依リ行政ノ項
ニテ亦現ルニ止リモトス

占領地域内ニ在ルル本邦臣民ニ對シテ司法及
警察ニ就テノ意見ニ在リテ其ノ政治ニ於テ
臨時陸軍ノ法令並ニ其ノ管轄地域内ニ於テ
陸軍刑法ノ適用ニ関スル勅令亦三條ニ謂フ所

外務省

ノ常人ノ犯罪トシテ常人ノ軍ヲ犯スル者
軍刑法ニ包含スルヤ否ヤノ間ニ對シテハ若シ軍
常人ノ軍ヲ犯スル者ハ常人ノ軍ヲ犯スル者
スルハ既ニ軍法令ニ依リテ陸軍刑法及治
罪法ニ由リテ其ノ刑ヲ變更シテ之ヲ
規定スルノ要ヲ見サレドモ其ノ罪ヲ犯スル
常人ノ犯罪ニ包含スルハ見ルニ尤モ一條ニ常
人ノ犯罪ニ包含スルヲ得テ犯シテハ其ノ罪
之ニテ獨リ臨時軍法令ニ依リテ其ノ罪ニ
トシテ強制法ニ非ラズハ勿論ナリ其ノ作ラ
國憲法ノ司法權ニ係ル條文ノ精神ニ依リ
軍法令ニ依リテ其ノ罪ニ對シテ其ノ罪
將々軍法令ニ依リテ其ノ罪ニ對シテ其ノ罪

官卜物之得入事者^別領地トシテ突ニ尙古領地
内在^在帝^臣臣民モ其古領地^内ニ在^在帝^臣臣民^ノ故
リ^テ憲法ノ保護ヲ脱スルニ^モ得^レズ^ル故
ニ^モ要^ス其ノ裁判權^ヲ官憲^トス^ル事^ヲ
モ^テ軍口^ニ臨^シ時^ニ軍法^會議^トス^ル方^ニ適當^ナリ^ト
思^フ也

然^レ古^ノ臣民^ノ訴^訟^ハ領地^{軍務}官憲^ニ於^テ行^ハル^ル事^ナリ^ト
勸^解的^ニ之^ヲ調^停ス^ル外^ニ之^ヲ官憲^トシ^テ取^扱
フ^ヘキ^ニ裁^定ス^ル故^ニ軍^訟者^ハ准^シテ^テ官憲^ニ於^テ行^ハル^ル事^ナリ^ト
於^テ提^起ス^ル外^ニナ^ラズ^ル

明治三十八年二月^ノ官憲制定^ノ官領地^人民^ニ對^シテ^テ令^ス
ノ^法理^ハ即^チ前^記ノ^精神^ニ基^キテ^テ以^テス^ル事^ナリ^ト
ケ^レド^モ今^ノ帝^臣臣民^ノ犯^スル^ル罪^ヲ裁^定ス^ル事^ナリ^ト

外 務 省

關^スル^ル事^ハ又^チ一^般ノ^民民^ノ訴^訟ヲ^モ想^定セ^ザリ^シモ^ト
ス^ル令^ヲ亦^チ七^條ノ^民事^ノ争^訟ヲ^モ高^級理^由ト^シテ^テ勸^解
的^ノ精^神ニ^基キ^テ官^憲制定^ノ法^理ニ^照シ^テ以^テス^ル事^ナリ^ト
二十七年^ノ官^憲制定^ノ後^ニ官^憲制定^ノ法^理ニ^照シ^テ以^テス^ル事^ナリ^ト
領地^内在^在日本^臣臣民^ノ裁判^權ヲ^モ裁^定ス^ル事^ナリ^ト
府^ノ官^憲制定^ノ後^ニ官^憲制定^ノ法^理ニ^照シ^テ以^テス^ル事^ナリ^ト
ノ^保護^ハ戰^争中^ニ亦^チ三^十一^條ノ^條文^ニ依^リテ^テ中^止セ^ラレ^ル
モ^ト見^做ス^ル事^ナリ^ト其^ノ後^ニ二十八年^ノ二月^ノ官^憲
制定^ノ後^ニ官^憲制定^ノ法^理ニ^照シ^テ以^テス^ル事^ナリ^ト
官^憲制定^ノ後^ニ官^憲制定^ノ法^理ニ^照シ^テ以^テス^ル事^ナリ^ト
尤^モ古^ノ領^地軍^ノ於^テ前^記ノ^精神^ニ基^キテ^テ裁^定ス^ル事^ナリ^ト
事^ハ官^憲制定^ノ後^ニ官^憲制定^ノ法^理ニ^照シ^テ以^テス^ル事^ナリ^ト
世^ノ官^憲制定^ノ後^ニ官^憲制定^ノ法^理ニ^照シ^テ以^テス^ル事^ナリ^ト

判了務ヲ行政官憲ノ手ニテ行フモ敢テ不
可ナシラス唯此場合ニ於テ其裁判ナルモハ司
法事務ノ性質ヲ脱シテ憲法上既上ノ條項ニ
據ルニ要セサル一經特別ノ行政事務トナリ
又此方針ヲ執ルニ就テ政府ヨリテ当該在領
地方統治上ノ大方針トシテ之ヲ取捨セシメ
ハカラス換言スルニ其方針ハ軍ヲ機ニシテ
政治差ノ軍司令官ノ意圖ニ由テスルニ國務機
要クニ内閣ノ方針トシテ決定セザルニカラス
在領軍務官憲下當該在領地域ニ領了ノ裁
判業務ヲ有ス帝國領事トシテ職務更係如何
ト云フニ在領國ト被在領國トテ三國トシテ於
テ條約中領了ノ裁判權ハ其本來平和ノ際

外務省

ニ施行スルヲ得ハキ規定了ノ項ハ在領事官ノ
開始トシテ其ノ活動ヲ停止セザルニ至ラ見
總事トス又各中立國ノ領了カ我軍ノ在領地
内ニ在在スル其國ノ臣民ニ付條約ニ依リ有
領了ノ裁判權ニ至ラテ我軍ハ之ヲ尊重ス
キ義務ナシ何トナハル外自領了ハ實際其地
方ニ權カヲ行フモ、得テ其ノ職務
ヲ行フニキモナレト一報ノ原則タルニ至ラ
國軍カ其ノ地方ヲ在領シタル場合ハ其軍
ヲ得テ其ノ受クニト米國南州戦争及日本
ノ台湾在領ノ場合ニ先例アリ現ニ在領軍
ハ必要ト認レハ其當該區域内駐在ノ以國領了
ノ職務執行ヲ停止スルニトモ為シ得ルニ故

ニ各國領土ハ其ノ職務ヲ執リテスニ當リテ
ハ軍事上ノ必要ノ許ス範圍内ニ於テハ軍司令
官等ノ指揮ヲトシ之ヲ行フモノト解釈スルヲ
可ナリトス尤モ居留地ノ如キ領土ノ駐在地ニ於
テハ從來ノ通リ領土カ條約上ノ裁判權ヲ我
軍ノ好意ニ依リ一時司掌セシムルモ妨ケナレトシ
居留地ノ如キ場合ニ於テハ其駐在地ノ地理的
区劃ニ依リ市場内等ニ依リテ區別スルノ如ク
シ

日清條約上居留地官憲ノ管轄ニ及シ来レテ裁
判ノ項例ハ清國人ノ被告タルモノハ依リ
ルルハ清國官憲撤退ノ結果駐在領軍
務官憲當然代リテ之ヲ管轄シ得ルヤト云フ

外務省

ニ此場合ニ及ラズ其管轄スルノ權限ナレト云フ法
理ニ依リテハ清國官憲ノ管轄ノ元者ニシ
テ裁判ノ權ハ仲裁的ノ法理ヲ學スルノ如
ク之ヲ行フニ由ナキハ希ナリトス
軍法ハ軍律ト異同ニ在ルル如ク軍法ハ國
内法ナリ軍律ハ交戦權ニ基クテ國際法上ノ慣
例ナリ軍法ハ被告ノ善意者ト推定
シテ其審問ヲナスモ軍律ハ被告ラレテ其反
者罪者ト推定シテ審問シ被告ラレテ其反
面ヲ呈スルモノトナリ其性質トスル要ルルニ軍
律ハ陸軍刑法ニ由リ又ナキカ又ハ明文アリモ
之ヲ實際ニ適用シ難キ程ナリ其項ヲ規定
スルモノニシテ其規定事項ハ勿論軍中ノ事

係る事項、二十八年七月廿八日制定ノ
在領地ノ民亦分令ノ色格ニテ之ヲ軍律
ト云フモ其ノ軍律ノ實質ハ曰令亦ニ條ノ規定
事項ナリ
軍政ト民政トハ其ノ曰河等實質トシテ異
ナリカカシ要スル事項治民ノ係ルモノ之ヲ民政ト
云ヒ民政ノ當局者軍人タル場合之ヲ軍政ト
稱ス下解ト差別ナキニ似ナリ

外務省

寫

明治十七年十一月十七日

外務省

探險隊の官報事務経過之件ニ付テ其ノ詳ニ付テ
先ヨリ先ヨリ送リ別紙ノ通リ相得ルニ供テ向來
ノ如ク

明治十七年十一月十七日

東京留守官報目録部附
公使館ニ奉書送官川上俊彦

外務大臣野澤武吉殿

原書ハ 日官領地通商一件(外七)ニ付

外務省

明治十七年十一月十七日

一〇

6-0062

0262

執務経過ニ関スル第一回報告

去八十月、本所シツツ官執務上、経過
ト云々申報シタルモ、最近ハシテ、約一ヶ
月半、百々於テハ、特ニ報告シタルモ、僅ルニ重
大ノ資料ト称スルモノヲ、務執者ノ、熟クシテ
月ノ初メ、後半、若シテ、出張中ナリシハ、官及
係吏書記官ハ、出張ノ用務ヲ了スルハ、以テ
共ニ金沢ニ帰任シ、若シテ、出張中、租税公債
並ニ土地家屋ノ課税ノ油膏ノ、課税ノ一覽
書面ニテ報告シ、合テ、各地ノ移轉セシ後、更
ニ、詳細ナル油膏ヲ送付スルコト、セリ（此後報告

外務省

ハ其内完成スルモノ、前信ニテ申報セシ如ク、追テ
閣下ノ報告スルハ、中絶定テリ）程ナリ、係吏書記
官ハ、各領地軍政事務ニ、附帯スル裁制、
項ニ、案ニ、取油、ノ、為、弁、之、軍、日、令、部、ニ、也、張
レ、帰任、後、更ニ、軍政、ノ、定、規、規、案、ノ、為、ノ、
口、出張、ナリ、右、各、口、也、規、ノ、際、係、吏、書記、官、視
察、セ、ル、由、地、ニ、於、テ、ハ、軍、用、ノ、案、流、通、ノ、状、況、口
地、軍、政、官、ト、希、國、領、ノ、下、ノ、職、務、上、ノ、系、係
ニ、関、ス、ル、意見、及、協、手、ニ、弁、之、軍、日、令、部、ニ、出
張、ス、ル、至、上、ノ、用、件、ノ、未、應、ト、ハ、シ、ル、由、ナ、リ、迄、若
月、二十、七日、廿、日、及、廿、日、ニ、於、テ、歸、シ、モ、及、報
告、書、キ、タル、カ、故、際、ノ、由、高、閣、ヲ、得、タル、事、ト
信、ス、由、亦、本、日、初、旬、中、途、ナ、リ、守、備、軍、軍、政

規則施行細則、青泥産特許法施行細則、及出
入船舶之定額、取滞規則(改正案)及營業
特許手續等、向者、求ニ應ニ立案提出シ
又青泥産法施行細則、施設上、以テ立案提出シ、
方針之定額、立案見ニ提出シ、置キテ、何レモ
確定ノ場合、立案見ニ提出シ、置キテ、何レモ
確定ノ場合、立案見ニ提出シ、置キテ、何レモ

吉船ニ當リ、字簿軍司、令部ハ、定リ、中、向、以、
テ、其、所、在、地、ヲ、青、泥、産、法、ニ、移、シ、下、シ、以、時、
川、官、ノ、任、所、ハ、金、州、ヲ、青、泥、産、法、ニ、移、シ、去、
リ、今、ノ、案、ニ、一、回、ノ、申、報、中、ニ、述、ス、ル、小、官、
ノ、定、額、ニ、係、ル、字、簿、軍、司、轄、地、域、中、ノ、政、治、情、
ノ、編、制、ニ、係、ル、準、則、ハ、其、他、諸、條、ノ、方、面、ニ、

外務省

リ、或、多、ク、從、出、ス、ル、未、キ、日、ニ、至、リ、テ、確、定
營業ノ法ヲ為スル、成ルニ至リ、ト、雖、モ、其、他、諸、條、
法、ニ、打、過、半、條、ノ、今、日、申、報、之、ヲ、實、施、ス、ル、ニ、至、リ、
不、随、ハ、シ、小、官、ノ、職、務、ハ、地、位、ハ、者、ホ、不、定、
賤、賤、ノ、旨、ニ、在、ル、カ、ル、日、夕、執、務、上、ニ、斷、ナ、カ、ラ、
ス、不、定、ノ、感、ハ、シ、ア、ン、ハ、斷、道、徳、ノ、情、ハ、サ、ル、ト、
ニ、至、リ、抑、モ、其、他、諸、條、ノ、編、制、ハ、軍、司、令、カ、
以、下、各、條、長、ノ、下、ニ、着、係、ト、各、部、ト、シ、係、
置、キ、幕、僚、ハ、各、條、(三名)ト、副、官、(四名)ト、シ、
成、リ、若、部、ト、シ、理、事、部、憲、兵、部、修、理、部、
金、橋、部、糧、餉、部、軍、醫、部、獸、醫、部、電、
信、部、及、郵、便、部、ノ、今、日、申、報、ス、ル、ニ、シ、テ、以、上、
即、チ、軍、ノ、編、成、表、内、ニ、入、ル、軍、醫、部、ト、シ、ト、ス、元

6-0062

0264

東支軍勤務令中ハ徳ノ廿七年後在領
地德智傑向ノ如ク民政部若クハ軍政部
ト称スルキモノナキヲ以テ前記幹部タル軍班列
以テ別ニ表スルモノナラシメテ官署等ノ
務者多ク陸軍海軍トテ此表スルモノナ
キハ原セシメ東支向ノ此表スルモノナ
ハ以テ各新ノ向スル諸方ヲ一設下位ニ
了んモノハス軍自今更ニ若クハ係課長ハ官署
ニ對シ相向ノ待遇ヲ與フモノハ海軍海軍
名モ官署等ノ務者地位前記ノ如クハ以
上ハ日常ニ密接ノ事ナラシメ今日更ニ
サレ他ノ官署ニ對スル待遇振ハ皆ニ異
ノ觀ニキルモノナラシメ別ニ日
ノ

外務省

ノ事務アルニ非ス故ニ恰モ通訳カ時々ノ所
要ニ應ジ司令官部員ノ命ヲ從テ通訳ニ從
事スル所アルト均ク軍人者向者カ官署ヲ
待リノ道ニ向テ此表向ノ減シテ唯或ハ法
規外ニ主事方ヲ命ジ或ハ必キ東支向ノ接待
ヲ應ジ若クハ通訳者若クハ執任ト云々カ
唯更ニ時々ノ所要ニ應ジテ軍務以テ向
スル東支向ノ輸送ヲ命ズルニ留マスルモノハ
官署ナリノ場合ニ向テ命ズルモノハ
軍人者向者他ノ官署ニ應ジテ之ヲ動カ他
智財ニ動カスモノナラシメ更ニ東支向ノ
信下任トテ之ヲ事ラハ官署ニ委セシモノアルヲ
見ス現ニ夫ノ如ク政想ハ東支向ノ

合しり或ハ又上官等中ヨリ他ノ事ニ要スル
職務即チ軍政事務ノ任命セラル者ナキヲ
保スル惟此特命ニ至リテハ武官中ニ
別立ル文官ノ授任ハ閣下カ必懸セラル
、通リ上官等カ軍ニテ他ノ將校各部
ニシテ時空際ニ受ルルヲテサリ職務者
僅ニ担當スル務ヲ日暮ニ得ルヤ否ヤハ一疑ハ
、所スルハ上官ハリ取裁別ノ定メ施セラル
、日中官等ノ命スル軍政ヲ務メテ若シハ
其ノ他ノ任ヲ以テスルニ至ルハトスルモ此点ニ
スル職務関係ハ確ニ劃定セラルニ決セシ
ル権限上各部トシテ衛戍ノ到底免ル
カラスハ任務ニシテ任テ所ルルノ却テ將來

外務省

ニ係ルヲ招クニ至ルアラシトシテ
現下ハ官ノ職務上ノ地位凡ソ此ノ如シ
ハ上官等カ命都ラズルニ際ニ閣下ノ
若シシハハ副官ニシテ字ハ若シハ服
モ忘却ヤルニシテ日暮ノ宿舎法曹及
他ノ待遇ニ至ルハ比較的私了ノ所スル
國ヲ取テ閣下ニ申報スルハ隨テ為
ト雖モ上未述フル所ハハ上官ノ職務
外務省ハ派遣員トシテハ上官ノ職務
ヲ得ル下若シハハ上官ノ職務
此ノ点ニ至ルハ上官ノ職務
際即チ事ニ至ルハ上官ノ職務
與ハ任シテハ上官ノ職務

既ノ帰朝ノ途ニ必カラヤリシヲ機トシヨシ
ト會テ前通ノ機柁ヲカ官ヲリテ係シヨク
下ノ内中ノ上ニ達セヨシニ下ヲ
春ノ口ニ使ヨク然トシヨク
右ノ清ヨク及年報ヲ
亦矣

外務省

6-0062

0268

昭和十八年一月一日

機要文部二年

丁重の重なる事

寫

採啓係者当字備軍... 政規則ノ制定公布ノ義ハ却... 及報告次次有リテ... 陸海ノ犯罪者ニ対スル裁判其他在留禁示... 亦分ノ裁ニ對シテ客月二十五日... 内地帝國領事ト軍政官トノ職務上ノ... 係ニ及スル信文書記官ノ意見中ニ相得... 次於今ノ回之ヲ... 廿五日附テ... 政官ノ訓令方ニ... 差進者數具

外務省

昭和十八年十二月廿九日

遠東字備軍司令部附

公使館二等書記官川上俊夫

外務大臣男青木村壽三郎殿

6-0062

0269

明治三十七年十二月廿二日

參謀長

陸軍軍政官宛

行政規則中帝王臣民犯罪之類云々
通條

乃取遼東守備軍行政規則若布相成者
軍政官ノ権限ハ一決ノ地域ニ於テ規則定
準據スルコトニ相定スルハ規則亦十一
條ノ軍人軍属以外ノ帝王臣民ノ犯罪者
ハ之ヲ管口野在ノ帝王領事ニ移シ又地
方ノ治安ヲ妨害セシムル者ハ風俗ヲ壞
乱セシムル者ニ對シテ留禁止處分ヲ行フラ
要スル場合ニ同様ノ義トシテ相成度也

外務省

外務省

明治廿七年十一月廿四日

梅峯文二平

寫

梅峯侯者乃字備軍管轄内ニ施行ス一行
政規則ノ制定公布ノ義ハ本ノ附別信ヲ
及報告次等ニ有之次文漢口在留帝國
臣民ノ犯罪者ニ對スル裁判其他在留兼
領事ノ儀ニ關シテ客員二十名附シテ及進達
内地帝國領事ノ軍政官トノ職務上ノ果
係ニ關スル信文書記官ニ意見中ニ相成リ
其外ノ回之ヲ領事ニ移スニ相成リ昨
廿三日附シテ別紙ノ通り兼謀總長ヨリ内地軍
政官ハ訓令有之其旨ハ本年迄口寫迄
差進致ス

外務省

東京字備軍司在留附

公使館ニ書記官川上俊彦

外務省長官ヨリ村壽平ノ殿

明治三十七年三月廿二日

少謀長

軍政官究

行政規則中帝立臣民犯罪之罪

通牒

今般遠東守備軍行政規則若布相成貴
軍政官ノ權限ハ第一於ノ地域ニ於テ相定
準據スルキコトニ相定ズルコト相成貴
豫メ軍人軍属以外ノ帝立臣民ノ犯罪者
ハ之ヲ管口駈在ノ帝立領事ニ移シ又地
方ノ多量ノシ妨害セシムル者ハ風俗ヲ壞
乱セシムル者ニ對シ存留禁止處分ヲ行フラ
ルベシ場合モ同様ノ意ハ以テ承テ相成度ク

外務省

遊藝局長

生

板成屋より所々生れ出ると我前より千々々
 板成の如く付かひいと決りぬる道行来
 おにやうのけ板成の如くは御承
 申す事と存し其打向は向の如く
 有り一様是といふ御一なる事あり
 百は一様是といふ是業の如くは御承
 痛みの如く山片の如くは御承
 向成の如くは御承
 御承の如くは御承
 御承の如くは御承

百十六

板田孝子抄

在平荘日本領事館

生



御承の如くは御承

6-0062

0273

軍政署ト領事館ト裁判ニ關スル
権限ノ分配

當地ハ戰時占領地ノ一部トシテ軍政執
行セラレ苟モ軍事上ノ必要ニ基クモノハ奉
ケテ軍政署ニ於テ處理シ其本邦人ニ對スルト
諸國人ニ對スルト將々其他ノ外國人ニ對スルト
ヲ向ハズ裁判事務亦固ヨリ然リトス唯各
國領事駐在セルアルヲ以テ外國人ノ被告タ
ル場合ニシテ軍事ニ關セザルモノハ之ヲ所屬
國領事ニ移シ領事ヲシテ裁判セシメ從テ日
本臣民ノ被告タル場合ニ於テハ帝國領
事ノ裁判權ニ屬ス之レ何人モ異議ヲ執
マサル所ナリトせば然レモ同題ハ其軍事ニ
關シ又ハ軍事上ノ必要トシテ範圍果シテ奈辺
ニマテ及フカニ在リ之ヲ廣義ニ解スルト狭
義ニ解スルトニヨリ實際ノ結果ニ大ナル異同
ヲ生セムンハアラズ

軍政署ハ之ヲ廣義ニ解スルモノノ如ク狭リ
作戰動作ニ障礙ヲ為スモノノ如ク軍政
執行ニ妨害ヲ及ホシ又ハ及ホス虞アリト認
ムルトキハ忽チ之ニ退去ヲ命ジテ放逐スルヲ常
トス世例散テ多シト云フニアリザルモ亦決シテ
寡シトセズ今一々例尋スルノ煩ヲ省クモ之
ヲ累シテ賭博罪ヲ犯スモノアリ軍政官以

在牛莊日本領事館

為ラク之ヲ願事官ニ移シ日本ノ法条ニ照ラ
レテ処断スレハ刑輕キニ決ス如カズ之ヲ管外
ニ進放スルニハト即チ軍政施行ニ妨害アリト
云フ口宣ノ下ニ該本邦人ハ進去セシメラタリ
之ヲ信ニシテハ軍人軍属以外ノ本邦人カ酒保ト
結托シテ軍人軍属ニアラサレハ成主セサルマキ
罪ヲ犯シ酒保ハ之ヲ処罰スルコトヲ得ルモ該本
邦人ハ之ヲ処刑スルノ法条ナキヲ以テ之ヲ願事
ニ移スリ迂トシ軍事上ノ必要ト云フ名義ノ
下ニ驅逐セラレタリ其他地方安寧ニ妨害
ヲ及ホス危險アリトシテ居るヲ許可セラレサ
ルモノ其數實ニ尠ントナサズ、

在牛莊日本領事館

ト云フ日本領事館ニ於テハ昨年八月開館以來
一ノ刑罰事件ナク又審問処罰シタルコトナシ唯
僅ニ民事ニ付キ一ニ和解ヲ為シタルコトナシ
キズ、要スルニ本邦人被害タル場合ト云ハ軍
事上ノ必要ト云フ口宣ノ下ニ軍政官ニ於テ処
断シ願事一時ニ諮議セラル、トアリトスルモ苟モ
軍政官ノ意ニ充タサレハ其意見ハ直電モ諮詢セ
ラル、トナクシテ軍政官ハ事ニ臨シ人ニ對シ任意
ニ審判シ、処決シ或ハ退去ヲ命ジ或ハ進放ヲ
為ス、之ヲ見レ昨午ニ於ケン狀況ナリト云、
凡ソ軍政官ノ專断ヤン、ト斯ク、如ク裁判事柄ニ
關シテ願事館ハ有テ無キ、視アリト云フモノア
必スシモ証ニルモノニアラサレカ如シ、而メ之ヲ軍政

官ノ見地ヨリ視レハ全ク根柢ナキニテ、明治
三十七年八月四日参謀總長ノ名義ヲ以テ、訓
令ガ有十六号即見ナリ、軍政官ハ之ニ依リテ均
モ軍事上ノ行動ヲ妨ケ若クハ地方ノ安寧風俗
ヲ害シ又ハ世慮アリト認ムルモ、アルトキハ其本邦
人タルトハ、外人世他ノ外国人タルトハ同ハスニ
退去ヲ命ジ或ハ折留シ又ハ出入禁止スルコトヲ得
（日訓分第一項但書）等、此訓令ヲ以テ奉ル
トキハ、軍政施行地域ハ、裁判ニ關シ軍政官ノ
隨意專決スル所ニ任シ世眼中領事館ナキモ
亦敢テ不當トモテ能ハサルハシ、
然レハ斯クハ如クレハ、帝國臣民ノ身本住所ノ自
由ナク又帝國利権ノ危達ヲ期スルコト雖シ、

在牛莊日本領事館

帝國憲法ハ帝國領土ニ於テ效力ヲ有シ臣民
ノ自由財産ノ安固ハ之ヲ他國領土内ニ於テモ
保障スルニテ、アルトモ、憲法保障ノ精神ハ
至ラハ自國領土外ニ於テ可成覆庇セムルコト
ニ務メサルハカラス、又例ハ永住ノ意思ナリ空
手ナ金ヲ擢セントスル徒トモ、居住ヲ免ヘシ
ニ國利ヲ張ラントスル際必スモ之ヲ排斥スヘキ
モノニアラサルベク、進ラズレハ、角ヲ矯メテ牛ヲ殺ス
ノ誹ヲ免レサルハシ、況ニヤ軍政官ハ軍事上ノ必
要ニ基クテ、行政ヲ以テ世祇權トシ、知人ノ保
護國益増進ノ為メニ別ニ領事館ノ設ケアルニ
於テオヤ、
抑モ自國領地ニ自國領事館ヲ置クハ、學理

上穩當トシテ純ハズ、戦時占領地ハ戦争ニ必要
 ナル限度ニ於テ本国主権ノ行使事實上停止
 セラレ占領國主権延長シテ行ハシテモ占領者ハ
 被占領國主権ヲ代理スルモノニアラズトスルヲ以テ
 近世國際法学者多数ノ通説トス、而シテ占領ノ
 法理ハ敵國ノ占領タルトガ三國ノ占領タルトニヨリ
 相異ナルヘキ理由ナク殊ニ當意ニ三目下清
 國憲意存在セズ所取モ亦我軍政署ニ於テ
 施行セルヲ以テ我主権ハ事實上完全ニ行ハ
 ルトスフヲ妨ゲズ、此時ニ當リ軍政署ト相並シ
 テ領事館ヲ置クノ純理上貫徹シ難キハ誠
 者リ併タスニテ明カナリトスフ可シ、此レ既使官上
 之ヲ設ケテ軍政署ト並ニセシメテ相扶翼シテ
 施政ヲシテ向然スル所ナカラシムルモ亦固ヨリ不可ナレ
 之レ便直政署上ノ向顯ナリ、純正法理論ニアラ
 サルナリ、此レ既官ニ占領地ニ軍政署ト領事館
 トヲ併ニセシメテ相扶ケテ施政ヲ完フセルトス、我
 邦事情ノ如キ特ニ其界限ヲ明固ニスルニアラ
 スレハ二者衝突ヲ惹スニアラザレハ、一他ノ蹂躪
 ニ付スルノ外ナキニ至ラズ、幸ニ目下軍政署領
 事館俱ニ並角ナキ人物ニ領事ハ温厚篤
 實ノ君子、兩者相和シ相親シムル莫クハ真ニ稱
 ナラントモ凡一朝交迭ノ際ニ於テ猶依然トシ
 テオチ係ノ特統ヲ期スルハ甚タ難シトシテモ敢
 テ托命ニアラザルヤ、
 是ニ於テ今般遼東守備軍行規則トシモノ充

在牛莊日本領事館

布せしむる地ヲ分テ二類トシ一ヲ露國租借地
域ト云ヒ他ヲ租借地以外ト云ヒ管口軍政官ノ
権限ハ亦一類地域ニ於テ規定ニ準拠スル
ニ定メ世カ十一條ニ軍政委員ハ世管内ニ在ル
軍人軍属以外ノ帝國臣民ヲ取締リ世カ軍政
官ノ之ヲ陸軍族長官ニ移シ云々トアリ而シテ對
スル例外ハ遼東守備軍參謀長ノ通牒ヲ以テ
設ケテシタリ曰ク軍人軍属以外ノ帝國臣民ノ
犯罪者ハ之ヲ管口駐在ノ帝國領事ニ移シ且
地方官等ヲ妨害セントシ若クハ風俗ヲ壞亂
セントスル者ニ對シ在留禁止処分ヲ行フヲ要ス
ル場合モ亦帝國領事ニ移スト承知アレト
軍政規則ヲ發布シ管口ハ亦一類地域ニ準スト

在井莊日本領事館

定メナガラ一片ノ通牒ヲ以テ除外例ヲ設クルハ
吾人馬外者ノ得テ解スルニ苦シム所ナルモ軍人ノ
眼ヲ以テスレハ恐クハ命令ト云ヒ訓令ト云ヒ時々通
牒ト云ヒ日一ノモノト解シテ可ナラカキ若シ此トセハ
守備軍參謀長ハ參謀總長ノ訓令ノ旨ヲ体
シテ特ニ管口ニ除外例ヲ設ケタルモノト解スルハ
ク其趣意ノ牒解スル嫌アルト云ヒ厚ク同ノ所
ニアラスルナリ、
行政規則ヲ孰讀シテ付通牒及參訓方百十六
号ニ及ンテ先ノ明カナルハ帝國臣民ノ警備官ハ
軍政官ニ於テモ之ヲ有シ(日本臣民ニ對シハ領
事官ニ於テモ人の警備官ヲ有スルハ言ヲ俾タス)
邦人ノ取締ハ軍政委員ニ於テ為スモ世カ露兵

6-0062

0278

ハ総テ帝國領事ニ引渡スルコト之ヲ、此レモ
帝國臣民ノ被先タル總テノ場合ニアラズ、軍事上
ノ行初ヲ妨クルモノニ付テ軍政實ニ於テ遂断スルノ
概ハ猶留係セラレタリ、(考訓二六、上段但去、行政規則
二、通牒考思)、而シテ軍事上ノ行初ノ範圍ハ未タ
之ニ依ラテ定マラサルナリ、

次ニ在留禁止トハ何ヲヤ、所謂退清処分ノ謂カ、
將々参訓ヲ有テ十六号ノ所謂退去、抑及出入禁
止ノ義カ、若シ前意ニ解セハ、本通牒ノ必要ヲ見
ルコト難シ、退清処分ハ法外轉國在為本印臣民
取締法ノ規定ニヨリ領事ニ於テ世権限ヲ有ス
ルハ論ナキ所ニシテ軍政官ハ権力ノ多寡ニアラス、
附与セラレタル権利ハ之ヲ有セシ、制限セラレハ在
在牛莊日本領事館

限ノ権力ヲ有スルモノニアラサルハ久、軍政官ハ法律ノ
成文ニヨリテ附与セラレシムル領事ノ職權ヲ初メヨリ
奪フ力アリナシ、故ニ之ヲ在義ニ解セサルベカラズ、
コノ意ニ於テハ参訓ヲ有テ十六号ノ趣意ト多ク背
馳スルノ嫌ナキニアラズト常ニ注意ヲ以テスルニアラズレハ
通牒ノ本旨或ハ不明ニ没セシ、果シテ此リトセハ苟
モ日本臣民ノ犯罪スルコト之ヲ領事ニ於テ審判処決
シ又苟モ日本臣民ニ関シテ出入禁止又ハ抑留等
ノ以テ去リ去ルモノハ領事ノ職權ヲ一ツヲ認メタリ
モノト云ハレバ可カラス、
然レモ軍人軍属ノ所為ニ係ル場合ハ勿論、軍事
上ノ行初ヲ妨ケ其他軍事上ノ必要ニ基ク処分ハ
軍政官ニ於テ断スルコト、此更テ明例ニスルニテ

6-0062

0279

ラサレハ内政ノ解決未ク成ラズ、一先ノ通牒亦軍
文ノ價值ナキニ了ハラシ、折モ軍事上ノ行動トモ
軍事上ノ必要ト云フ、意義明瞭ナルカ如クシテ未
タ其ノ如ク瞬時ナシモノハナシ、其解散権ハ何人ニ
存スルカ、軍事上ノ必要ト云フハ、軍政官ニヨリテ定
マルカ、軍政官カ視テ以テ軍事上ノ行動ト為スモ
カ即チ軍事上ノ行動ナカ、若シ此リトセハ、軍事上
ノ必要ノ範圍不定ニシテ廣クシテ及ハル所ナク至
ルハ、内政ノ取逐セラル、毎事ノ以テ為ル
許可セシザル、軍兵ノ意ヲ違ハル婦女子ノ退去ヲ
命セラル、実母正妻ノ出入ヲ禁止セラル、皆軍
事ノ必要ニ基クト云フ、亦直哉、

在井莊日本領事館

其権限ト信ズル所ヲ固持シ和衷服同ノ精神
ヲ欠カハ権限争議絶エルノ概ナク兄弟國境ノ
災ヲ拒クニ過キ智マシ、是ニ於テカ領事ハ大臣
閣下ノ訓示ニ随ヒ今ヤ軍事上ノ目的ヲ達スル
ニ急ニシテ國内皆戦勝ヲ希フノ時軍政官ヲ
補佐シ兼政ナカクシメントス、高橋貞二殿スレ、
小官又領事ノ意ヲ体シテ軍政官ヲ主トシ領
事官ヲ従トシテハ彼ヲ扶翼スルノ意思ヲ以テ毎
服ノ邊リ備スルニ若カスト考ヘ爾ニ憲兵長那
須憲兵大尉ヲ訪シ又其命令軍政官ニ能リ
一尚モ帝國臣民ニ國内事件ハ之ヲ領事ニ知シ
願可ニ於テ言明知知ス
二若シ軍事上ノ必要ニ基キ軍政官ニ於テ処分

6-0062

0280

セントル時ト是レ一且之ヲ改奉ニ照合シ
兩者並洗ノ上必次スヘキト
ト取定メタリ

此レ凡等ニ一化ノ口約ニ甘シテ格手軍政官ノ別後
ヲ得テカ如クハ利府迄タルヲ免レテ軍政官ヲ補佐
スルニ施政ノ定テテ款スルニ由ルニ沈黙ト補佐ト
ハ自ラ別アリ、領事官ハ名義上ノ裁別ニ格手軍政
ヲ以テ安シテ軍政官ノ任テテ為テ所ニ放任シ世交
彼ノ跋扈ニ默シテ之ルカ如クハ補佐ノ趣意ニ
アラサルハ、領事官ニ於テモ其格手軍政ヲ限リ嚴
ニ知人ヲ取締リ格手軍政ノ任テテ為テ所ニ放任シ世交
処刑シ地方安寧ヲ害シ又ハ風俗ヲ亂ラントスルニ
ノケルハ退法処分ヲ漸行シ以テ彼ノ是ラセテ所ヲ

在牛莊日本領事館

補ヒ以テ公安公序ノ維持、國利民福ノ發展ヲ
計ルニ寧ロ真ノ補佐タルベキヲ思ヒ、格手軍政
ヲ得テ格手軍政ヲ取締リ格手軍政ノ任テテ為テ所ニ放任シ世交
交ニ市内ヲ巡回セシメ民情ヲ洞悉シ秩序ヲ維持
シ以テ民ニ怨美ナカラシメ、以テ軍政署領事館並置
●政策ノ趣意ニ合致セシトテ切ス、

明治三十八年一月十日

宮口頤平館ニ於テ

領事官補出田高次郎

6-0062

0281

文書課

再回

明治廿九年四月四日

明治廿九年四月四日

明治廿九年四月二日 起草

同日發遣

主任



陸

陸

右内陸先

田園寺

機務課第一分科 機務課第一分科

陸軍省 陸軍省 陸軍省

外務省

手紙
東島 三子 仲年 友 龍 在 七
此 親 之 函 此 三 子 仲年 友 龍 在 七
亦 同 五 月 五 日 以 上 中 途 井 中 亦 有 意
右 候 之 後 亦 有 意 候 之 後 亦 有 意
ツ 旨 以 上 之 旨 以 上 之 旨 以 上 之 旨
主 上 之 旨 以 上 之 旨 以 上 之 旨 以 上 之 旨
亦 務 課 之 旨 以 上 之 旨 以 上 之 旨 以 上 之 旨

6-0062

0282

シヨウキニ向録キニラキニトナシ
其詳ハ後ニ示ス
甲本ハ後ニ示ス
誰ハシヨクニ示ス
始儀ノ上ニ示ス
牛ノ上ニ示ス

外務省

6-0062

0283

文書

明治廿九年四月廿二日 日發遣

明治廿九年四月十二日

方人同了

商編主任

次人 東京 杜尔六休...

機密送第...

宣國...

孝天...

太...

外務省

帝國...

各國...

及...

孝天...

孝天...

孝天...

孝天...

6-0062

0284

吹手ナリヤリエヲ
知不^赴知^位者ノ
身有^必身^必ニ
海^ナシ^カル^シマ^シ付^シク^ル者^ノハ
進^アル^地者^ノハ
後^ノ上^ノ百^ノ也^ノ
手^ノ成^ル升^ル

外務省

得又二月以後幸天ニ
ツト^委升^上ニ^之ト^軍部^以出^ルル^ノ職^務上^ノ
國^領ヲ^定ム^ル其^職務^ノ範^圍ヲ^試ス^ル也^ト
口^口口^口ノ^必身^ニ大^ニ而^シク^者ニ^國領^ニ
大^部ノ^{方針}ハ^私領^事ノ^主ト^スル^ニシ^テ
外^人ノ^公領^不ル^ニシ^テ國^領ニ^シテ^ハ公^領ノ^務並^ニ
事^ノ任^任瓦^ノ而^テ事^務ノ^一部^ハ其^ノ

6-0062

0285

任トキスノラ此ノ世ノ世ノ子トシテ軍政ノ事ヲ行フ

軍政ノ事トシテ軍政ノ事ヲ行フ

軍政ノ事トシテ軍政ノ事ヲ行フ

軍政ノ事トシテ軍政ノ事ヲ行フ

軍政ノ事トシテ軍政ノ事ヲ行フ

軍政ノ事トシテ軍政ノ事ヲ行フ

軍政ノ事トシテ軍政ノ事ヲ行フ

軍政ノ事トシテ軍政ノ事ヲ行フ

軍政ノ事トシテ軍政ノ事ヲ行フ

軍政ノ事トシテ軍政ノ事ヲ行フ

軍政ノ事トシテ軍政ノ事ヲ行フ

軍政ノ事トシテ軍政ノ事ヲ行フ

軍政ノ事トシテ軍政ノ事ヲ行フ

軍政ノ事トシテ軍政ノ事ヲ行フ

軍政ノ事トシテ軍政ノ事ヲ行フ

軍政ノ事トシテ軍政ノ事ヲ行フ

軍政ノ事トシテ軍政ノ事ヲ行フ

外務省

二〇〇〇

軍政ノ事トシテ軍政ノ事ヲ行フ

軍政ノ事トシテ軍政ノ事ヲ行フ

軍政ノ事トシテ軍政ノ事ヲ行フ

軍政ノ事トシテ軍政ノ事ヲ行フ

軍政ノ事トシテ軍政ノ事ヲ行フ

軍政ノ事トシテ軍政ノ事ヲ行フ

軍政ノ事トシテ軍政ノ事ヲ行フ

軍政ノ事トシテ軍政ノ事ヲ行フ

軍政ノ事トシテ軍政ノ事ヲ行フ

軍政ノ事トシテ軍政ノ事ヲ行フ

軍政ノ事トシテ軍政ノ事ヲ行フ

6-0062

0286

考定ハ軍師友ヲ輔ケ共同知衆老
解ノ事請ヲ取理^多又^外判^能修^多
ノ^也モ^不遠^内内^北ニ^任ス^ルハ

タ^ハニ^派リ^口信^子ノ^軍師^友ト^同係
ニ^付テ^考定^考定^考定^考定^考定^考
計^リ意^思ノ^疏通^ヲナ^スル^ハ

考^定考^定考^定考^定考^定

外務省

臨^場最^近ノ^事情^ニ基^テニ^考定^考定^考定^考定^考
ニ^付テ^考定^考定^考定^考定^考定^考
不^動ニ^付テ^考定^考定^考定^考定^考定^考
考^定考^定考^定考^定考^定考^定考^定考^定考^定考^定
招^告考^定考^定考^定考^定考^定考^定考^定考^定
計^ル意^思向^テ考^定考^定考^定考^定考^定考^定考^定考^定
人^ノ計^画考^定考^定考^定考^定考^定考^定考^定考^定

6-0062

0287

研立に我道為る者道七三三ノ方策
考^レ特、考^レ右に於^レ江意ヲ如^レ一抄志
交^レ升
右の如く也

外務省

6-0062

0288

西原東遊記

次

明治三十四年四月廿三日 起
同日 廿三日 發達

明治廿九年四月二十四日 濟

明治廿九年四月二十四日 濟

通商局

官 政務局長

衛生局長

帶原中

急周部 領事官補完

機密

内訓案

厚多角

外務省

帝國政府ニ奉ル五月一日ヨリ安東
縣及大東清ヲ各回、直高ニ開放
シ外國人、居住及外國領事官、
赴任ヲ許スコトニ決シタル旨付テ、中
外領事官ニ通知スル旨ニ付、
遠近中各領事官ニ領事官ニ任シ

6-0062

0289

安東縣駐在ノ年日本東清鐵道
有三

安東縣及地方官博ニ目下為我軍

事に願ノ下ニ在ル次第ナリ以テ之ヲ

開放シテ外國人ノ居住及外國領

事官ノ赴任ヲ許スルコトアリテハ

標必要ナル各務ノ準備ヲナスルヲ要

外務省

ニルモノ抄ナカラスガレ

此際可成速ニ用也

軍憲ト協儀ノ之並ニ必要ナル諸

準備ニ着手可成速ニ

將又

安東縣

軍政古トシ職務ノ關係

其職務ノ範圍ヲ其時
 確ナリシノ置リト必妥ニ有之
 事ヲ右ニ要スル方針ニ
 事ヲ以テ主トシテ外國人及他國
 之國ニ交際事務並ニ帝國臣民
 ノ取締事務ノ軍改ニ關係ナキ
 モノヲ管掌セシメ軍改官ヲ以テ
 外務省
 軍改其事務關係事務ノ
 管掌セシメ有之ニ其
 性質ニ別刻ニ難キモノハ
 事務管掌ニ有之者ノ任性ヲ強ク
 必要ニ有之者又●領事ノ
 權ニ屬スルモノト雖モ現ニ軍改官
 於テ之ヲ執行シ得ルモノハ其

6-0062

0291

其川経ノ順序方格^道ニ就キ
何等カノ取極ヲナスノ必要アリ見ハ
ト有^{安事好}一是等^{安事好}ニテハ貴官^{安事好}ニ奉
着後ノ成速ニ軍改官ト格儀ヲ
遂テ細目ヲ定メ意見ヲ添ヘテ之ヲ
布大臣ニ申可キ成布大臣ハ院
軍者島ト格儀ノ更^{外務省}ニ可キ初

左、

~~軍改官ノ格儀ノ事~~ 軍改官ノ格儀ノ事
貴官^{安事好}ニ軍改官ヲ輔^{安事好}ケ共同知
衷各般ノ書^{安事好}務^{安事好}ヲ及程^{安事好}可キ成
又^{安事好}自^{安事好}國^{安事好}領^{安事好}書^{安事好}ノ知^{安事好}キ^{安事好}ハ^{安事好}必^{安事好}ズ^{安事好}遠^{安事好}カラ^{安事好}サ
ル内^{安事好}安^{安事好}事^{安事好}好^{安事好}ニ^{安事好}赴^{安事好}任^{安事好}ス^{安事好}ル^{安事好}ト^{安事好}認^{安事好}メ^{安事好}ラ^{安事好}ル^{安事好}

6-0062

0292

依り同般事上軍政府上ノ周
係ニ就テハ貴府ニ於テ常ニ両者ノ
緩和ヲ計リ意見ハ疏通ヲ十
分ナラシムル操兵力ノ未成

安東縣大東海ニ於テ情國統系
ヲ破産スルニトシテ就テハ帝國政府ハ
其外ノ向我ヲ進シラズラシムルニ
外務省

此ノ情國政府ヲ支拂テハ
待テ可成布野人ヲ同統系員
ニ採用セシムルヲ希望トシテ之ヲ應
諾スル積ナレト付右様以テ之ヲ可成
成

尙捕也最近ノ事情ニ至リテハ
帝國政府ニ於テ未ダ十分之ヲ



知悉セリノ事項ニ付、
口語般ノ事項ニ要シ、
調査ヲ遂ゲ、
報告可也、
諸國官民ノ我ニ對スル意向、
滿州ニ於テ、
滿州ニ於テ、
滿州ニ於テ、
通商ヲ發達セシムル方策、
執リ、
如、
右及銅、

外務省

6-0062

0294

Extra Copy

寫

1449 (晴)

奉天茂三九日五月廿七日
不省署

西園寺外務大臣 秋原書記官

第三号

奉天ニ於ケル領事官ト軍政官ノ權限ヲ定ムルニ
關シテハ山座長ヨリ電報ノ次第モアリ專ラ總
督府ノ意見ヲ確ムル必要ヲ感ジ九日旅順ニテ
西川參謀ニ會見シタルモ要領ヲ得ズ十二日港后
參謀長ノ帰府ヲ待受會見シタルニ同府ハ陸軍
當局ヨリ未ダ今回奉天開放ノ次第ニ關シテ詳細
ノ訓令ヲ授ケサルモノ、如ク奉天其他ノ開放ハ
畢竟一軍奉行勅令中ノ要則ナリト、強意ノ固執

6-0062

0295

軍政署ハ未ダ
正任

陸軍大臣ヨリ陸軍大臣宛機密信ニ對スル
同日付陸軍大臣ヨリ陸軍大臣宛機密信ニ對スル
同日付陸軍大臣ヨリ陸軍大臣宛機密信ニ對スル
同日付陸軍大臣ヨリ陸軍大臣宛機密信ニ對スル
同日付陸軍大臣ヨリ陸軍大臣宛機密信ニ對スル

陸軍大臣ヨリ陸軍大臣宛機密信ニ對スル
同日付陸軍大臣ヨリ陸軍大臣宛機密信ニ對スル

陸軍大臣ヨリ陸軍大臣宛機密信ニ對スル
同日付陸軍大臣ヨリ陸軍大臣宛機密信ニ對スル
同日付陸軍大臣ヨリ陸軍大臣宛機密信ニ對スル
同日付陸軍大臣ヨリ陸軍大臣宛機密信ニ對スル
同日付陸軍大臣ヨリ陸軍大臣宛機密信ニ對スル
同日付陸軍大臣ヨリ陸軍大臣宛機密信ニ對スル
同日付陸軍大臣ヨリ陸軍大臣宛機密信ニ對スル
同日付陸軍大臣ヨリ陸軍大臣宛機密信ニ對スル
同日付陸軍大臣ヨリ陸軍大臣宛機密信ニ對スル
同日付陸軍大臣ヨリ陸軍大臣宛機密信ニ對スル

6-0062

0296

官が條約及國務 例に依り當
然帶有スル職權ヲ魚視シ且清國
及外國官憲トノ交渉迄モ軍政官
之に當ルモノトセリ
管口に於ケル軍政領事兩官ノ權限
ニ同シテ人同地ヨリ書面ニテ上申
シタル如ク又貴大臣親シク御視察
ノ如ク只モ清國地方官ノ現在セサ
ルカ否ノミナラス従来ノ成行ニ放任
シタル爲ノ軍政官ノ職權不當、擴
展セラレ領事官ノ存在ハ殆ト内外

ニ認メラレズ從テ内外官民ノ苦情
ト精疑心ヲ惹起ス頗多シ然ルニ
今ヤ新ク、奉天其他ノ開放、當リ
全ク模範ヲ管口ニ取リテ權限ヲ
規長スル如キ人開放ノ趣意、及シ
且列國ヲシテ益々我心事ヲ疑ハシ
ムル、至ルハレ政、領事官ノ駐在セ
ル箇所ハ依テ軍政官ヲ全廢セカ
ルモ其權限ヲ適當、減縮スルヲ
必要トス
軍政ニ同シテ人前報後列ル所我文

6-0062

0297

武官氏ヨリ有利^理ナシ非難ヲ耳セ
 リ總督府ハ本年四月軍政官ノ興
 ハタル訓令ヲ以テ大ニ軍政官ノ職
 権ヲ制限セリ殊ニ大ニ訓令中ハ
 領事館ノ設置アル地域ニ於テハ
 領事官ノ職^域ニ干渉スルコトナシ
 ノ文字アリ
 領事官ノ権限ニ関スル本官ノ意
 見ハ西三日申ニ電報スヘシ

大臣

次官

○政務

通商

人事

會計

取調

No. 1449 (暗)

西園寺外務大臣 秋原書記官

第二号

奉天茂 三九五年五月廿一日前 一〇〇五
 不省署 七四〇

奉天茂於ケル領事官ト軍政官ノ権限ヲ定ムルニ
 関シテハ山座長ヨリ電報ノ次第モアリ專ラ總
 督府ノ意見ヲ確ムル必要ヲ感じ九月旅順ニ
 西川参謀ニ會見シタルモ要領ヲ得ズ十二日港后
 参謀長ノ帰府ヲ待受會見シタルニ同府ハ陸軍
 當局ヨリ未ダ今回奉天開放ノ次第ニ関シテ詳細
 ノ訓令ニ接セサルモノ、如ク奉天其他ノ開放ハ
 畢竟軍事行動中ノ要則ナリト、趣意ヲ固執

信山何

36

6-0062

0298

内
之開放地ニ於ケル 外ノ事務ハ專ラ軍政官ヲ
シテ之ニ當ラシムル考案ヲ有セリ殊ニ本年四月
四日付貴大臣ヨリ陸軍大臣宛機密信ニ對スル
同日付陸軍大臣ヨリ田舎ハ總督府ニ詳細通知
セラシ居ラズ本月一日參謀總長ヨリ電報ニ據リ
總督府ハ領事軍政兩官ノ權限ニ關シ管口
於ケルト同様ナル規定ヲ設ケ安東縣軍政官
對シテハ本月一日既ニ此規定ヲ送達シタルヲ奉天
軍政署ハ未ダ 正任 軍政官ナキト且本官ノ
兼任ヲ待ツ為ノ送達セザル由ナリ右權限規
定ハ全体社壇ノ條項ニモテ殊ニ領事

官カ條約及國際慣例ニ依リ當
然帶有スル職權ヲ無視シ且清國
及外國官憲トノ交渉迄ハ軍政官
之ニ當ルモノトセリ
管口ニ於ケル軍政領事兩官ノ權限
ニ關シテハ同地ヨリ書面ニテ上申
シタル如ク又貴大臣親シク御視察
ノ如ク只ニ清國地方官ノ現在ニサ
シカ為リ、ミナラズ従来ノ成行ニ放任
シタル為ノ軍政官ノ職權不當、擴
展セラレ領事官ノ存在ハ殆ト内外

6-0062

0299

認ノラレス徒テ内外官民ノ苦情
ト精疑心ヲ惹起ス傾多シ然ル
今ヤ新ク奉天其他ノ開放ノ當リ
全ク模範ヲ當ルニ取リテ権限ヲ
規長スル如キノ開放ノ趣意ニ及シ
且列國ヲシテ益々我心事ヲ疑ハシ
ムルに至ルハ故テ領事官ノ駐在セ
ル箇所ハ仍令軍政官ヲ全廢マカ
ルモ其権限ヲ適當ニ減縮スルヲ
必要トス
軍政ニ向シテハ前報後列ノ所叙文

武官氏ヨリ有利^理ナル非難ヲ耳セ
リ總督府ハ本年四月軍政官ノ興
ヘタル訓令ヲ以テ大ニ軍政官ノ職
権ヲ制限セリ殊ニ右訓令中ハ
「領事館ノ設置アル地域ニ於テハ
領事官ノ職^域ニ干渉スルコトナシ
ノ文字アリ
領事官ノ権限ニ関スル本官ノ意
見ハ兩三日中ニ電報スル

喜見之云々 又之 清和 之 以 中 右
少可致得書意於 彦 彦
明和九年三月十日

在 安 東

領事 同 部 之 印



外務省長官信齋西園寺公望殿

在 外 公 館

6-0062

0302

軍政官及領事ノ職域

軍政官及領事ハ互ニ協力シテ帝國ノ利權擴張ニ努ムヘキヲ勿論ナモ
執務上ノ円滑ヲ期スルニ爲メ兩官ノ職域ヲ左記ノ如ク規定ス

清國官憲ト關係

一 清國官憲ヨリノ交渉ハ總テ軍政署ニ提出セシム

二 清國官憲ノ交渉事項中專テ領事ノ職域ニ屬スルモノハ軍政署ヨリ
領事館ニ移ル事若シ軍政官及領事何レモ關係スルトキハ互ニ協議
シテ之ニ對スベシ又其事項專テ領事ニ關係セルトキハ軍政署其文
涉ノ任ニ當ル

三 我方ヨリ提出スル交渉事項中護照ニ關スル件ハ領事直接清國地方
官ト交渉スルモ其他ハ軍政官若ハ軍政官ト協同シテ之レカ交渉ノ
任ニ當ルモノトス

各國領事ト關係

在外公館

軍政署及領事ト各國領事トノ關係ハ概テ軍政署及領事ト清
國官憲トノ關係ニ準ス

居住營業ニ關スル取扱

一 奉天(遼寧縣)ニ居住營業セントスル帝國民ハ其地軍政官ニ願ヒテ其
許可ヲ得テ之ヲ領事ニ由ルベシ

二 帝國民、企テカクシテ營業シテ關係大ナルモノト認ムルトキハ軍政官其許可
決スルニ先テ豫メ領事ノ意見ヲ詢フモノトス

三 外國人ニシテ銃砲火藥ヲ販賣スルモノハ我軍政署ノ許可証ヨリ有ルモノ
ニアラザレバ販賣セシムベカラズ本件ハ豫メ外務省ヨリ各國ニ通報セシムル要ス

四 外國人ノ營業其國ノ領事ヨリ軍政署ニ通報セシムルヲ要ス(本件モ豫メ
外務省ヨリ各國ニ通報セシムルヲ要ス)

五 領事館ノ設置ナキ國籍ニ屬スル人民ノ居住營業ハ一切帝國民ノ例
ニ準ス

旅行に關する取扱

一 帝國民、旅行に關するは、各住居業に關する取扱と同じ
 二 護照携帶の要する地方に旅行せんとする者は、軍政署に出願し其許可を得て更に領事館に護照を交すべし
 三 外國人に於て旅行せんとする者は、其國の領事館に於て軍政署の許可を得て之を以て本件に豫め外務省より各國に通報し置かるべし

裁判に關する件

一 帝國民の民事訴訟及刑事事件は一切領事館の管轄トス但し此等事件は一定の期毎に領事館に軍政署に通報ス
 二 帝國民の犯罪に於て臨時軍法會議の権限に屬するモノは、領事館に於て裁判ス
 三 関東總督府軍政署及領事館に於て規定せる諸規則違反者ハ其の關係官憲に於て之を處分ス

在外公館

四 領事館に設置せられたる國籍に屬するモノの犯罪ハ帝國民の例に據り

地方衛生

地方衛生に主として軍政官地方官憲を督勵して之を實施せしむ

政務 通商 人事 會計 取調

大臣 次官

No. 1473
暗

奉 奏 者 農 三 五 年 五 月 七 日 第 二 三 五

荻原書地官

西園寺大臣

第五號

領事官政官權限關スル本官意見

見長文付郵便付シ差支ナキヤ

電訓シテ



34

6-0062

0305

明治
年
月
日
起草
日
發
清

了

主任

主任



西園寺

暗
電
報
後
二
分
七
秒
三
分
五
秒
已

外務省

送第 1161 號
39 年 3 月 30 日

外務省
電報課
長
官
印
刷

6-0062

0306

大臣

No. 一四八一

(暗)

西園寺外務大臣

内閣領事

安東縣奏 元年五月十七日後 六五五、
本者着 九三〇、 B4

第八号

軍政官ト領事トノ職務権限ニ関シ

テハ先方ヨリ急キテ改明議ニ應シタル

處營業許可權ヲ陸外大體ニ於

テ本官訂正案ニ通り軍政官ノ同意ヲ

シ限是案十ヨ日卸便ニテ上申セリ

發案權ハ未ク問題トナラス充分研

究ヲ要スルニ付發案事務ノ理能



次官 政務 通商 人事 會計 取調

ナル警部一名ト共ニ一般事務補佐
ノ為に査査二名至急任命出奏セシメテ
レシ

6-0062

0307

二十九年五月十一日

普通商會

營口ニ於テハ我領事ト軍政官トノ職
務關係ノ件

營口ニ於テハ我領事官ト軍政官ノ職務關係
ニ関シテハ先達テ西園寺外相親敷河視察相
成ク付茲ニ小官ヨリ詳報致スル要ハ無ク
存テ得共當營口ノ兩官憲間ノ職務關係ハ
自ラ滿州ニ新設セラル可キ他ノ領事官ノ職務
權限ノ模範ニ可キ我政府陸軍官憲ニ
於テ思考セシ店ハ存テ付左ニ小官ノ卑
見聞陳致ス

お敬

982

在平駐日本領事館

指キ軍政官ノ決行セル經營中ノ事ノ永久的
設備ニ屬シ他日軍政撤止後ハ領事官ノ責
任職務ニ歸ス可キ事項ハ今日ノ場台ト雖凡軍
政官ハ直リ領事官ニ協議ヲ盡ス乎若クハ
少クハ其大体ニ関スル報導ヲ與ヘ置ク必要
可有之ト存テ例ニ新ニ地區ヲ獲得シ道路橋
梁ノ設ケテ護岸工事ヲナス等ノ事項ハ軍政
廢止後ハ悉リ領事官專屬又ハ領事ト清國官
憲間ノ措置交渉ニ歸ス可ク從テ領事官
ヲレテ今日豫ノ其事業ノ性質設計等ニ付キ兼
知セシムルハ誠ニ至當ニシラ且必要ノ措置ニ有之候
然ルニ當地ニ於ケル實際ハ則チ然ラズ軍政官ハ
軍獨ニ各般ノ事業ヲ決行シ領事ハ之ニ関シテ

冷至

山

6-0062

0308

何等ノ協議又ハ通知ノ預ル事モ無之乎ヲ格シ
テ其成ヲ見ルニ止リテハ他日軍政撤廢ノ日
外務當局者カ之ヲ引受テ當リ至大ノ不便不利
ヲ感スルニ可至ト視存テ就テハ其点ハ本者ニ於テモ
深ク研究ノ費サレ今當リ陸軍當局者ノ間ニ
十分ノ協議ヲ遂ケルニ必要可有之ト存ス

次ニ當口ニ於テハ軍政官ノ領事官ノ現在スルニ係
ラス本邦人ノ居住營業ニ關シ許否ノ職權ヲ
実行致居リ且ツ本邦人ノ取締ニ關スル罰則ヲ
制定致居スハ實際異様ノ感アリテ目下ノ狀態
ニ於テハ軍政ノ存在ニ却テ致居スモノト存ス勿論
特定人ノ居住又ハ特別ノ營業カ軍事ニ障害ヲ
與ヘヌ場合ハ可有之モ斯ル場合ハ其事理ヲ詳

在牛莊日本領事館

ニシテ領事官ヲ通シテ制裁ヲ加フ可キモノニシテ
一般ニ本邦人ニ對シテ居住營業及取締ノ職權
ヲ有ス可キ理由ハ無之ト存ス
前頭要スルニ軍政官ヲシテ目下ノ場合斯ル權限
ヲ固持セラルハ徒ニ煩累ヲ本邦人ニ及ホシ我高權
ノ擴張ニ惡結果可有之ト視存ス從テ又當口ニ於
ケル領事官及軍政官ノ職務關係ハ奉天其他
ニ於テ模範トス可キ無之ト存ス本官ニ追テ奉天者
後該地ノ軍政研究ノ上意見可及電禀ヲ得共
不取敢右大要申述ス致具

明治三十九年五月八日 大使館書記官秋原守
外務大臣侯爵西園寺公望殿 守



取調 會計 人事 通商 政務

大臣 次官

邦

No. 一五-三 (暗)

奉天發 本署着 廿九年五月十九日午後五時

西園寺外務大臣 秋原大使館書記官

第六号

本官ノ第五号電報ニ関スル意見ハ
昨日附便ヲリ安東縣領事ハ軍政官
トノ間、既、恠是スル處アリタル由ナレ
ルモ清國及外國官憲トノ交渉内外
人ノ開放地以外ノ旅行免許及本邦
人ノ居住営業ノ件ハ可成本官ノ意見
ヲ採用セラレタシ



6-0062

0310

三十九年五月十九日 警務局

機密公信第 貳 辨

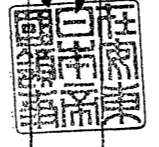
陸軍少軍政官上、陸務
権限協定之関件

本日十日附極密第壹号行ノ以テ
東部各ノ立案ニ 陸軍少軍政官上ノ
陸務権限協定之関件 陸務第壹号
ニ通リ、少官、訂正案トシテ軍政官上
ノ立案ニ 陸軍少軍政官上ノ立案
ニ通リ、陸務第壹号ニ付テ、協定
ノ理由、又少官ノ立案上、訂正
ノ理由、又少官ノ立案上、訂正
ノ理由、又少官ノ立案上、訂正

在外公館

陸軍少軍政官上、
陸務第壹号、
陸務第壹号、
陸務第壹号、

陸軍少軍政官上



外務省各官署
追々本件附屬立案ニ 本日十日附
極密第壹号行ノ立案上、陸務
天竺原了事主記官一送達以テ

997

6-0062

別紙第壹号ヲ寫

法蘭西官憲トノ關係

一 删除

二 領事カ法蘭西官憲ヨリ受ケル交渉
事件中軍事ノ關係ニモハ之ヲ軍
政官ニ移シ軍政官カ受ケル交渉
事件中余ヲ軍事行政ノ關係ナキ
モハ之ヲ領事ニ移ラズキヲリス事ニ移シ
軍政官及領事何レモ關係アリ時
若クハ事件ノ性質上帝カ利害ニ重
大ノ影響有ラ及ホクモキハ互ニ協議シ事
務ノ許ス限ヲ補佐シテ之ヲ知ラセシ
三 我カヨリ提出スル交渉事項中國際

在外公館

法條約及法律ニ依リテ領事ノ職務
ニ屬スルモノニシテ余ヲ軍事行政ノ關係
ナキモノハ領事ヨリ之ヲ法蘭西官憲ニ交
渉シ事務苟モ軍事行政ノ關係アリモ
ハ軍政官ニ專屬シ若クハ領事ト協同
シテ交渉ノ任ヲ事トス

居住ノ事業ノ間ニ取

一 開放地域内ニ居住スル者ハ帝カ
臣民ハ領事館令ヲ以テ其出入ヲ
強制シ領事ヨリ軍政官ニ通報ス
トス
軍事ノ關係アリテ若キハ軍政官
ノ許ラザ得テ入ル之ヲ領事ニ届出テシ

一 軍事之關係ナキ一般ノ事業ハ領
 事ニ於テハレノ領事ニ於テハ支キ
 多ト認ケル時ハ之ヲ軍政官ニ通牒シ
 異議ナキヲ確メテ上テ可ク之キトス
 二 帝君臣民ノ在リテ軍事ニ關係セ
 ン者ヤト名ニ奉命一般ノ和害ニ關係
 大ナルモト認ケルキハ軍政官ニ許テ
 支キニ之ヲ豫メ領事ノ意見ヲ問フモ
 ノトス
 三 在外館領事館ノ設置ナキ國籍ニ
 屬スル人民ノ領事館ニ軍政官ニ届出テ
 シノモリニ事業ハ軍政官ニ於テ許可
 スルモ可ク
 在外公館

六 領事ハ法律第百八の号
 ノ規定ヲおセトキハ之ヲ軍政官ニ通
 牒スルモ領事ニ關係レテ事業
 者トトキハ豫メ軍政官ノ意見ヲ問フモ
 トス

七 軍事ニ關係レテノ事業ハ
 軍隊由軍衛ト直接ニ重大ノ關係
 ヲ有スル事業
 軍隊及ビ軍衛ニ上テ特別ノ取締
 ヲ施スル事業等ヲ云フ
 旅行ニ關係セザル
 一 帝君臣民ノ開放地以外ニ旅行セルト
 スルハ其他軍政官ノ許可ヲ得
 ンコトナラズ

得^テ之^ル館^ニ事^ニ出^テレム
 裁判^ニ関^スル^件
 四^ノ使^館及^シ館^ヲ設^キル^事七^年國^籍
 三^年政^署所^轄三^年ス

在外公館

6-0062

0314

法廷に對する送附書

法廷に對する關係

一、削除の理由

系集を依りて、領事ハ法國官憲下
直接に交渉する權能を斯くして、領事
トシテ、根本ノ性質ヲ没却シ、他外國
ノ領事ト權衡ヲ失ふニ依リ、中或テ、
極ラ辭テ、法國官憲ヲシテ任意に
事若クハ軍政古ニ提也セムコトス

二、訂正の理由

法國官憲が任意に交渉し來ルル事
件、性質ハ領事若クハ軍政古ニ
於テ其何レ、官、官掌ニ屬スヤラ

在外公館

考究シ他官ニ屬スルコトハ直ニ之ヲ移

轉シ其性質疑ニキキハ互ニ協議シ

テ、其輔佐ニシテ、安んニ本項訂正ハ

前項削除、自若ク結果、外ナラズ

三、系集に依リテ、國際法條約及法律

上定メラルル領事ノ職權ヲ全然無

視スニ付、此ノ如ク訂正ハ安んニ事實

に於テ、軍政施行中、交渉事件ハ

多ク、軍政古ニ關係ニ付、領事ノ系

集、軍政古ニ協同シ、上交渉ニシテ

亦、領事ノ系集ニ屬スル也

一、凡ソ開放地域内ニ在リテ、諸外國人

ハ、領事ニ對シテ、自由ヲ及スルコトヲ

認ムル也

國民に於て軍政官、許す可し安
た権衡ヲ失ふに付此を行ふ可し安
し其權上ニ安て行ふ可し、取權ヲ
以て其處に於て強制シテ軍政官ニ通
牒せしむる

又之を學業ニ他外人に其國ノ領事
ノ認可ヲ得ず軍政官ニ通告せしむ
るに帝后國民ノ於て直接軍事
行爲ニ關係せず學業ニ限る外人
同様、取扱フ要らざる事トス

二、前項訂正、自給、結果ニ外ナラス
五、領事館、設置せず國ト長田公使館
尺寸に空國人ノ居住學業多量ヲ管轄

在外公館

三、年々修り中訂正可し安
六、領事ノ居住禁止を以て軍政ト
關係する多量ヲ修り、或協議
上敷否を、方針トス修り奉項ヲ
増補ス

七、本項増補ニ関しては、修り研究ヲ
要し軍政官、意見ヲ考へ細目ヲ定
む、必要アリト作ス

一、居住學業ニ関し、訂正、自給
、結果ニ外ナラス

四、居住學業ニ関し、取扱第三項同一理由

明治三十七年五月二十一日

機密第六号

在英荷領事ト管ハ軍政官ト職務権限
大要具報ノ件

小官ト管ハ軍政官ノ職務権限ニ関シ書面ヲ
以テ具申可致様由訓示ニ次第ニ有之矣ニ付
其大要左ニ開陳致ス

明治三十七年七月日本軍、管ハ占領ト同時
ニ我軍政ヲ施行セシ次テ八月四日伊集院領
事考地ニ於テ領事館ヲ開設シハ管ハ同
月十五日着任同領事ヨリ事務ヲ引継キ遂ニ
今日ニ至レシモノニシテ軍政官ト領事ト職務権
限ハ其考時ヨリ自然ニ制定セシ之ヲ今日ニ因襲

在英荷日本領事館

シ来リタルモノニ有之矣且ツ軍政官ニ對スル心得
方ニ関シテハ明治三十七年八月二日機密第六号
信ノ訓令ニ有之矣ニ付中官ハ之ヲ標準ナシテ
要ノ事件ニ関シテハ軍政官ヲ輔佐シ双方互ニ
融和親睦シテ各々國事ニ尽スヲ以テ至服ト致
居ス

領事及軍政官ハ同一地方ニ在リテ同一日本人
ヲ管轄セリト爲テ其目的トスル所相同シカラス
即チ軍政官ハ在留日本人ヲシテ我軍奉行
動ニ防衛ヲナシメサル様取締ヲナスモノニシテ領
事ハ條約ニヨリ日本人ノ得ル權利ヲ保護スルヲ
以テ本旨ト致居ス
日本人ハ清國ノ開港ニ来リ營業スル條約上ノ

機密第六号

手紙

6-0062

權利ニ屬スル者又戰時ニ於テハ軍事行動ニ妨害
ヲナスモノニ對シ相違ノ取締ヲナスノ必要アル事
ヲ俟タザル所ニシテ此莫ニ孰ラハ領事モ亦軍政
官ト其行動ヲ一ニスルト有之矣前陳ノ次第ナ
ルカ故ニ当地在留各日本人ハ軍政署ニ對シテハ居
住營業共凡テ願書式ヲ用テ領事館ニ對
シテハ概テ願書式ヲ用テハ相成居矣
蓋口ハ露國ノ上領當時ヨリ清國之官又在任セザル
ノ以テ軍政之官ハ清國人ニ對シテハ然タル地方官
ノ職權ヲ行ヒ日本人ハ清國人間ニ起ル訴訟事件
ニシテ清國人被告タル場合ニハ軍政官之ヲ審理ス
ト當テ日本人ニ對スル訴訟事件ハ民事刑事
ノ別ナリ一切帝國領事ニ於テ審理判決シ風俗

在留各日本人領事館

壞亂治安妨害ノ虞アリト認めルモノモ亦領事ニ
於テ制裁ヲ加ヘ唯々軍事行動ニ妨害ヲナスモノニ
對シテハ軍政署自ラ之カ処分ヲ決行改居矣
当地ニハ我身管居留地ノ設テリ多數ノ在留人ハ
何レモ支那市街ニ雜居スルカ故ニ地方警察ノ事
ハ軍政署ノ管理ニ歸シ居テ軍政署ノ警務係
事務ハ憲兵長之ヲ擔任シ其下ニ憲兵ト支那
巡捕ト憲兵ノ章ニ日本人ハ國花警察事務ヲ
執行シ巡捕ノ章ニ支那人ノ取締ヲナスルニ相成居
矣
当地軍政官ハ清國人ニ對シテハ司法行法ノ而權有
スルト同時ニ收稅權ヲモ併有スルカ故ニ清國人ヨリ
徵收シタル各種ノ稅金ヲ以テ百般ノ事業ヲ經營シ

居レリ斯ル事業、軍政以外、事ニ屬スルカ如シト
焉。当地ノ軍政官ニ所謂ル自治ヲ併テ執行
スルモノナルカ故ニ苟モ日清兩國人ノ利益ヲ進揚ス
ニ定ルヘキモノアリト断然之ヲ決行改居ス是レ即
チ之ヲ經營スル費用ニ充ツキ巨款ノ財源ヲ有スル
ニ外ナラズト存ス

以上述ル所ノ如ク領事規則ニヨリ領事ノ当然
行フべき職務、軍政實施中ト爲ルニ悉ク之ヲ行
ハズ、唯々戦争ノ時代ニ經過シ平和全ク克
復セル今日ニ於テ軍政官ハ依然日本人ノ取締ヲナ
セルハ聊カ異稱ノ觀ヲリト云フモノナリト果モ若
地軍政官ノ關係總督府ノ直轄ナルヲ以テ曰總
督府ノ存在シテ軍政ノ繼續セラレ限リ、勢力

在牛莊日本領事館

日ノ状態ヲ變更シ難クニシト相信シス

右ノ具報スル故具

明治三十九年五月九日

在牛莊

領事 瀨川淺之進



外務大臣侯爵西園寺公望殿

林密第三號

警政務局

出 發

領事官、軍政官、職務権限
ニ関スル件

樞密院ニ附シテ及西送付ハ領事官ト軍政官
ノ意見ハ電報ヲ以テ具申可致ノ局長文付別
紙ニ相認メハ本件ニ関シテ本領事官ハ軍政
官向者ト其地ニ於テ直接協議致ル極知
然レ且同領事官ノ意見ハ本官ノ今ト大ニ懸隔
存トシテ貴地ノ実情ハ本官別帝ノ意見見テ尚
肯ト然ト又本官ノ立案中日情交渉ニ関スル件
及ハ外人ノ旅行ニ関スル件ハ本官具重要

在外公館

機密 1046

視テ條項ニテ奉天ノ既ニ開放ニ決シテ領事官館
後置道サレ以上ノ日情交渉案件ノ領事官館專
屬ニシテ貴地ニ有テ尚外國人ノ開放地及ハ
開放地ハ軍用軍事上差支テキ地域ノ旅行ハ自
由ニシテ既ニ帝國政府ノ諸外國ニ聲明セシ
テラ以テ奉天外ニテ所ニ開放ノ今日ニ於テ依然手
續上ニ制限ヲ附カサキ往ラシ他國ノ情疑ト若
感ラズラシ過ヤカレ又租借地ハ一開放地ト本邦
人ノ旅行ニ制限ヲ附シ其程度ニ許可シ得ルハ
往ラシ然レ且高橋擴張主義ニ撞著スル事
実争ラバカス各項目ニ対テ理由ハ先キ貴大臣
親ラシテ觀察ノ結果事情明ラシテ有テ付統
元簡畧ニ止ラ下憲本直因ノ上ニ急陸軍省

6-0062

0320

大文彦相成、同館前、一、字、訓、令、其、一、字、梅、上、取、斗、相、成、度、其、教、具

明治廿九年五月十八日

在奉天

大徳館一子書記官ヤ秋系守一

外務大臣侯爵西園寺公望殿

在外公館

6-0062

0321

條約第三條 附屬條款

第一 清國官憲との關係

一、奉天總領事館管轄以内に生じたる日清交渉事件は、關レテハ總領事、奉天將軍との間に交渉ス可シ

(理由) 既に開放シタル以上兩國の交渉事件は、領事及清國地方官に於テ担任ス可キハ條約及國際慣例に基テ所ナリ交渉事件中專ラ軍事行政に關係スルモノは領事官より軍政官に協議ス可キハ勿論トス

二、奉天以外、領事館を設置無キ軍政管區に於テハ軍事上ノ要求設備及區分ニシテ急速ヲ要スルモノハ當該軍政官直接ニ當該清國地方官に交渉スル事從前、如シ但シテ該軍政官ハ右、交渉案件及其理由ヲ附シテ可成速ニ在奉天帝國總領事館ニ通知ス可シ

在外公館

(理由) 目下、狀態總領事館、設置無キ軍政管區除外例ヲ設クルハ止ムヲ得カル事トス而シテ當該地方官、要ケタル軍事交渉ハ必ス奉天將軍に知照セラレ總領事トノ交渉トナル可キカ故ニ但シテ明白ノ必要アリ

第二、各國領事官との關係

帝國官憲ト各國領事館ト、交渉ハ總テ領事官に於テ担任ス

第三、帝國臣民ニ對スル關係

一、奉天及其附近に於テハ帝國臣民(以下之ヲ居留民ト云フ)ノ居住及營業、許否ハ領事官之ヲ管轄ス但シ軍事上ノ理由ニ依リ特定ノ人又ハ地區及營業、種類ニ關シテ制限ノ必要アルハ軍政官より領事官に照會ス可シ

二、奉天及其附近相當區域以外に於テハ帝國臣民ノ居住管

業ノ許否ハ軍政官之ヲ司トル

(理由) 奉天及附近以外ニ居住營業セル帝國臣民ハ陸軍
兵用商人ノ性値ヲ有スルガ故ナリ

三、居留民其他帝國臣民、右開港市場間及開港市場ト租
借地間ヲ往來スルニハ旅行免許ヲ要セズト雖モ其途中ニ停
泊シ又ハ其順路以外及奉天以北尙ホ軍政施行地域ニ旅
行スル者ハ必ス軍政官ノ許可ヲ受ク可シ

又右旅行ノ爲メ清國地方官ノ護照ヲ要スルハ軍政官ノ許
可ヲ得更ニ領事官ヲ經テ之ヲ受ク可シ

(理由) 旅行免許ハ從來苦情ノ種ニシテ且成商權擴張ト
撞着スルガ故ニ開港市場間旅行ハ此際之ヲ自由ニ可シ

四、居留民ニ對シ贓得金其他金錢ヲ納付セルル處分ハ軍
政官之ニ干與セズ軍政官上ニ管造物ヲ公衆ニ借用セルルニ依リ

在 外 公 館

テ徴收スル手教科ハ軍政官ニ於テ豫メ其ノ率ヲ定メ領事
官ヲ經テ公告ス可シ

五、居留民取締ニ關スル違警罰其他ノ四罰則ハ領事官
之ヲ制定發布ス

六、関東總督、從前發布シ又ハ今後發布スル^{軍律}罰則及
軍政官既ニ發布シ若クハ將來發布スル四罰則中直接

ニ軍事ニ關係アルモノハ居留民ニ對シ直接ニ効力ヲ有ス
其裁斷及處罰ハ右関東總督及軍政官專任ス

七、帝國臣民ノ犯罪及帝國臣民間罪ニ帝國臣民ヲ被告
トスル外國人ノ民事訴訟ハ領事官ニ於テ審理裁判ス

但シ帝國臣民ノ犯罪ニシテ臨時軍法會議ノ權限ニ屬スル
モノハ領事官干與セズ

第四、外國人ニ對スル關係

一、清國人其他、外國人、奉天及其附近ニ居住營業スル事ニ
関シテハ、領事官并ニ軍政官ヨリ干渉セズ但シ銃砲火薬ノ
販賣其他軍事ニ関係スル營業ニ就テハ、関東總督又ハ
軍政官ノ定メタル規則ニ依リ領事官ヨリ當該外國官
憲ニ協議ス可シ

二、外國人ノ各開港市場間ヲ往復スルハ自由トス又外國人カ
開港市場以外ノ地ニ正當ノ手續ヲ經テ旅行スルモ亦自
由ナレド軍事上ノ理由ニ依リ一定ノ地域及人ニ對シ制限ヲ要スル
ハ、軍政官ハ領事官ヲ經テ當該外國官憲ニ通知ス可シ
三、清國人ニシテ軍律其他軍事上ノ罰則ニ違反シタルハ
軍政官ハ領事官ヲ經テ清國官憲ニ其處分ヲ求ム可シ
四、清國人以外ノ外國人ニ對シテハ軍律其他軍事上ノ罰則
則テ適用セズ但シ其特ニ適用ノ必要アルモノ豫メ當該外
在 外 公 館

國領事官トノ間ニ協議ス可シ

五、公使領事及保護官官憲ヲ有セザル外國人ハ總テ帝國
臣民ノ例ニ依ル

第五、其他、関係

一、奉天及其附近、地方衛生ハ領事官軍政官及地方
官憲相協同シテ之ニ任ズ

二、奉天及其附近、道路橋梁其他軍政上ノ設備經營
ニシテ永久ニ且ルモノハ軍政官ハ領事官ニ協議ヲ尽ス可シ

三、在奉天ノ官廳ニ日本人ヲ僱用セシムルハ領事官ヲ
經由ス可シ領事官ハ應聘者ノ權限ノ輕重ニ係ラズ總テ外
務大臣ヲ經テ關係官廳ニ交渉ス可シ
從前関東總督及軍政官ヨリ推搦應聘セシメタルハ

其偏聘契約ヲ纏メテ領事官ニ引継ノ可シ
(理由) 顧問其他ノ應聘ハ博章ヲ要スル事ニシテ從
未整案サナカラス之ヲ持ニ本項ヲ掲グル所以ナリ

在外公館

6-0062

0325

案... 日本... 及軍政... 少... 追... 上... 軍... 文... 申... 中... 外... 司... 部... 三... 日... 年... 月... 日... 在 外 公 館

外務省... 司部... 三... 日... 年... 月... 日... 在 外 公 館

外務省... 司部... 三... 日... 年... 月... 日... 在 外 公 館

6-0062

0327

別紙

軍政官ト領事トノ職域トノ事

軍政官及領事ハ互ニ協力シテ帝國ノ利権擴張ニ努ムヘキハ勿論
ナモ執務上ノ円滑ヲ期スルニ及兩官ノ職域ヲ凡記スル如ク規定ス

清國官憲トノ關係

一 清國官憲ヨリ文涉事項中若シ軍政官及領事何レモ關係
アルハ互ニ協議シテ之ニ對スベシ

二 我才ラ清國官憲ニ提出スル文涉事項中國際法條約及法律
ニ依リテ領事ノ職務ニ屬スモノシテ全ク軍事行動ノ關係ナキ

モノハ領事ヨリ之レヲ清國官憲ニ文涉シテ苟モ軍事行動ノ關
係アルモノハ軍政官ニ轉屬シ若シクハ領事ト協同シテ文涉ノ任
當ルモノトス

各國領事トノ關係

軍政署及領事ト各國領事トノ關係ハ概シテ軍政署及領事ト清國官
憲トノ關係ニ準ル

在外公館

居住營業ノ關ニ取扱

一 開放ノ開港場地域内ニ居住スル帝國臣民ハ領事
館令ヲ以テ其居住ヲ規制シ領事ヨリ之ヲ軍政官ニ通牒スモノトス而シテ
其營業ヲ許可シタルハ又同じ

但軍政執行中諸種ノ營業ニ軍事行動ノ關係アルモノト認め

二 帝國臣民ノ營業ニシテ軍事ノ關係アルモノハ軍政官其許可ヲ決
ス而シテ其營業ノ性質將來ニ重大ノ關係アルモノハ其許可否ヲ
決スルニ先テ豫メ領事ノ意見ヲ問フモノトス

三 外國人ニテ銃砲大砲ヲ販賣スルモノハ軍政署ノ許可証ヲ有スルモノニ
有ラザレバ販賣セズルコトヲ本件ノ條外務省ヨリ各國ニ通牒セラルコト要ス

四 外國人ノ營業ニ其國領事ヨリ軍政署ニ通報セラルコト要ス(本件ノ條
外務省ヨリ各國ニ通牒セラルコト要ス)

6-0062

0328

五 公使館領事館設置ナキ國籍屬民ノ居住營業ノ專
ラ軍政官ノ管掌ニ屬ス

六 軍政官退去處分ヲ及セシクハ之ヲ領事ニ通牒スヘシ又領事カ
明正ニテハ法律業ハ之ヲ處分シ及セシクハ之ヲ軍政
官ニ通牒スヘシ若シ領事ニ關係シテ營業者カ片ハ後ノ軍政
官ノ意見ヲ問フモノトス

旅行ノ權ニ取扱

一 帝國臣民ニシテ開港場地域以外ニ旅行セトスルモノハ軍
政官ニ領事ヲ許シテ得テ之ヲ領事ニ由ルベシ
二 護照携行ヲ要スル地方ニ旅行セトスルモノハ軍政署ニ告報シ
其許可ヲ得テ更ニ領事ニ領事護照ヲ受ケルベシ
三 外國人ニテ開港場地域以外ニ旅行セトスルモノハ一切其國ノ
領事若シハ公使ヲ經テ軍政署ノ許可ヲ受ケルベシ

在外公館

(本件ハ豫メ外務省ヨリ各國通報ヲ置カレリ要ス)

裁判ノ關係

一 帝國臣民ノ民事訴訟及訴訟事件ハ一切領事ノ管轄トス
但シ訴訟事件ハ一定ノ期毎ニ領事ヨリ軍政官ニ通報ス
二 帝國臣民ノ犯罪ニシテ臨時軍法會議ノ權限ニ屬スルモノハ外
ハ領事ニ於テ裁判ス
三 関東總督府軍政署及領事ニ於テ規定セシ諸規則及
者ハ其關係官憲ニ於テ之ヲ處分ス
四 公使領事館ニ設置セザル國籍ニ屬スル取締及犯罪ノ
處罰ニ專ラ軍政署ノ所轄ニ屬ス

地方衛生

地方衛生ノ主トシテ軍政官地方官憲ヲ督勵シテ之ヲ實施セシム

53

監事ト軍政官トノ職務権限ノ関係
閣内閣外ノ各案ヲ第一軍政官トノ職
事ト協議シ上ニ交テ改メ加ヘル点及其理
由左ノ如ク

法國官憲トノ関係

系第一 删除

監事ヲ删除シ授業ヲ軍政官
ニ移シ同意ス

系第二 即改行一

右項删除ノ結果ニシテ大略監事ノ
行正案ニ同シ

系第三 即改行二

在外公館

監事ヲ行正案通シ軍政官ニ移
シ同意ス

各國監事トノ関係

系第一 通シ

法國官憲トノ関係、諸項ヲ改
正加ヘルニ改行ヲ加フルニ必要ナク
ノス

其他官憲トノ関係

系第一 改行

監事ヲ撤止シ改行案ヲ第一軍
政官ニ大體ニ移シ同議ナキモ
官憲トノ各案ヲ軍事ニ関係
トシテナキモノハ官憲トノ
可能

6-0062

0330

在外公館

ニシテ且テ事ヲ詳ク察知セラルルニ付カ
之ヲ辨シテ一般ノ法律ヲ可格ニ欲

事ニ属スルモノヲ認メテ軍政執行中
ハ諸種ノ法律ヲ悉ク軍事ニ関係ス
ルトモ做スモノナシテ事實上其法律

可権ハ全ク軍政官ニ屬セシメ下ニ協
議ス得ル帝皇臣民ノ自由及其其
法律ニ関スル取扱ハ法律ノ提議通

リ軍政官ノ権限ニ屬ス
系案二 多ク少ク改行シカ
系案三 系案通リ

系案四 系案通リ
系案五 改行
在外公館
改行案六 増補
法律ノ提議ノ改行案ニ即チ軍政

官カ在テ去ルニ付テハ之ヲ法律
ニ補綴スル規定ヲ追加ス
権力ニ関スル取扱

系案一 改行
法律ノ提議ノ改行案ノ通リ

系案二 系案通リ
系案三 多少ノ字句ノ改行ヲ加ヘシメ

裁判ニ関スル
系案一 系案通リ
系案二 系案通リ

6-0062

0331

系事三 系事一 内子

系事四 改訂

般事提出 改訂事項は得る系
三 係は外國人、犯罪多し、時トシテ
般事、所不有、改訂せしめりとも、般事三ハ
存、中権限なきが故、軍政官、所
有、居るトス

地方衛生

系事四 改訂 安 七ノ

在外公館

6-0062

0332